

- 哺乳類 -

哺乳類の概要

湖東平野の東縁に位置し背後に鈴鹿山脈を擁する彦根市には、変化に富んだ地形と多様な自然環境がみられる。湖東平野各地で土地開発が進められていく中、彦根市の平野部には島状に孤立した山地やパッチ状の森林が残されているほか、犬上川ぞいには発達した川辺林もみられる。こうした土地は、哺乳類にとって山地と平野部との往来を活発にする回廊としての機能を果たし、分布の拡大や遺伝的多様性の維持に貢献していると考えられる。また、山地は平野部から山頂部までの距離が短く、冬季の積雪量の差が大きい。このため、積雪地での行動が苦手なイノシシやニホンジカにしてみれば積雪量の少ないエリアに簡単に移動する事ができるので大変好都合である。さらに、彦根市の立地は伊吹山地から美濃・北陸方面の個体群と近江盆地や鈴鹿山脈の個体群が接触し遺伝的交流がはかれるジャンクションとしても重要である。今回の調査では、16科25属30種（うち2種は外来種）にのぼる哺乳類の生息情報を得ることができたが、こうした豊かなファウナの成立には彦根市の立地が深く関係しているといえるだろう。

現在、滋賀県内で生息が確認されている哺乳類（ノイヌ・ノネコを除く）は18科37属41種で、このうち約73%の種が彦根市内でも確認されている。これまでに公表されている彦根市の哺乳類相に関する文献には、環境庁による自然環境保全基礎調査（環境庁自然保護局，1993）や公共土木工事に関連したアセスメント報告書（彦根・犬上広域廃棄物投棄場管理組合，1995）（滋賀県，1993）（滋賀県湖東ダム建設事務所・株式会社建設技術研究所，1994）（滋賀県湖東ダム建設事務所・アジア航測株式会社，2004-a）（滋賀県湖東ダム建設事務所・アジア航測株式会社，2004-b）などがあるが、いずれも調査エリアや調査対象種が限定されていて市内全域でファウナを調査したものは無かった。一方、隣接している米原町では町史通史編のなかで哺乳類についても取上げており（名和，2002）14科23属26種がリストアップされている。ここで報告されている種のうち、カワネズミは彦根市内ではまだ生息を確認していない。先に述べたように彦根における哺乳類研究の歴史はまだ浅く、カワネズミなどは今後の調査で生息が確認される可能性もある。情報の不十分な種（要注目種）に対してあらためて適切な評価をするためにも、今後も継続的な調査が必要である。

今回生息情報を得た30種の評価の内訳は、絶滅危惧種が2種（約6.7%）、危急種が2種（約6.7%）、希少種が5種（約33.3%）、要注目種が6種（40%）、要注目種が8種（約26.7%）、特にカテゴリー区分をしなかった種（以下普通種）が7種（23.3%）である。情報の不十分な種として位置付けている要注目種と普通種を除いて考えると、半数の種が現在の生息状況をふまえて何らかの評価を受けていることになる。なお、各種の評価は、量的なものではなく基本的に生息状況の質をふまえたものであるが、情報量のばらつきが大きいのでやや客観性の低い評価も含まれている。

危急種として位置付けたリス、ムササビ、そして要注目種として位置付けたノウサギ

は、ここ数十年で分布域を縮小させている状況がうかんできた種である。また、普通種のキツネやタヌキ、要注目種 のイタチ類（テン+イタチ+チョウセンイタチ）はロードキルの被害に遭う事が多く、個体群に継続的に及ぼす影響は深刻と思われる（1997年～2002年にかけて国道8号線の愛知川・御幸橋～米原町西円寺・国道21号線分岐の区間で125件のロードキルが発生している）。今回の調査では取り組みきれなかったが、今後は、ロードキルや狩猟、林道の設置や森林の伐採など、ケモノたちの生息域への人間の干渉が彼らにどのような影響を与えているかを検討する必要がある。さらに、今回の調査ではチョウセンイタチやハクビシンといった移入種も確認しており、彼らが生態系や人の生活へどのような影響を与えるか注目しておかなくてはならない

彦根市内に生息している哺乳類たちの未来は、決して明るい物とは言えない。山地には林道や植林地が広がり、大木の樹洞をねぐらとして利用しているものや植物質のエサを多量に必要とするものたちにとっては、もはや生息に適した環境が維持されていると言い難い。また、サルによる農作物への加害やシカによる林業被害が発生したり、それに対抗するための害獣駆除も頻繁に行われており、人の生活との軋轢が生じやすい状態になっているといえる。今回の調査では、すでに絶滅種となってしまったオオカミとカワウソに関連する伝承を聞き取ることができた。今から100年後、22世紀を迎えようとしたときに、私達の子孫が伝承でしかケモノと向き合えないような事態に陥らないためにも、人とケモノとの新たな関係を探る努力が必要ではないだろうか。

<参考文献>

1. 阿部永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説. 北海道大学図書刊行会, pp. 279.
2. 阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 1994. 日本の哺乳類. 東海大学出版会, pp. 195.
3. 彦根・犬上広域廃棄物投棄場管理組合, 1995. 陸生生物 哺乳類. 彦根 犬上広域一般廃棄物最終処分場建設に伴う環境影響調査報告書: 148-149.
4. 伊沢紘生, 1996. 霊長目総論. 日本動物大百科2 哺乳類. 平凡社: 6-7.
5. 環境庁自然保護局, 1993. 第4回自然環境保全基礎調査動植物分布調査報告書(哺乳類). pp. 206.
6. 環境省自然保護局計画課自然環境調査室, 1997. 都道府県別メッシュマップ25 滋賀県.
7. 環境省自然環境局野生生物課(編), 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 1 哺乳類. 財団法人自然環境研究センター, pp. 177.
8. 環境省自然環境局, 2005. 第6回自然環境保全基礎調査哺乳類分布調査報告書, pp. 213.
9. 小牧實繁・直良信夫・藤岡謙二郎, 1941. 近江佐目の洞窟遺跡. 古代文化, 12(8): 385-393.
10. 中谷淳, 1996. イノシシ. 日本動物大百科2 哺乳類. 平凡社: 118-121.
11. 名和明, 2002. 哺乳類. 米原町史通史編, 米原町役場: 75-85.
12. 名和明・高柳敦, 1997. ニホンカモシカ・ニホンジカの生態と生態系保全. 滋賀県琵琶湖研究所所報, 第15号: 74-79.

13. 日本哺乳類学会種名・標本検討委員会 目名問題検討作業部会, 2003. 哺乳類の高次分類群および分類階級の日本語名称の提案について. 哺乳類科学, 43(2): 127-134.
14. 滋賀県, 1993. 陸生生物.(仮称)滋賀県立大学整備事業環境影響評価書: 307-320.
15. 滋賀県琵琶湖環境部自然保護課(編), 2000. 滋賀県で大切にすべき野生生物(2000年版).
16. 滋賀県湖東ダム建設事務所・株式会社建設技術研究所, 1994. 陸生生物. 栗栖治水ダム建設事業環境影響評価(現況調査)委託報告書: 71-796.
17. 滋賀県湖東ダム建設事務所・アジア航測株式会社, 2004 a. 動物環境調査 1-1 哺乳類. 平成14年度第1-2号栗栖治水ダム建設事業環境影響調査その1業務委託報告書(公開用): 1-12.
18. 滋賀県湖東ダム建設事務所・アジア航測株式会社, 2004 b. 動物環境調査 1-1 哺乳類. 平成14年度第2-14号栗栖治水ダム建設事業環境影響調査その1業務委託報告書(公開用): 1-21.
19. 佐々木浩, 1996. ニホンイタチとチョウセンイタチ. 日本動物大百科 1 哺乳類. 平凡社: 128-131.
20. 高柳敦, 2005. 哺乳類. 近江日野の歴史, 第1巻自然・古代編, 滋賀県日野町: 168-191.

<謝辞>

門田真司氏、高道和博氏には男鬼の穴の調査にあたりお世話になった。川田伸一郎氏にはモグラ類の捕獲調査の際にご協力いただいた。また、聞き取り調査にあたっては、大勢の地域住民の皆さんに様々な形でご支援・ご協力をいただいた。以上の方々に、心よりお礼申し上げます。

(阿部 勇治)

貴重種の解説・調査結果について

貴重種の解説 -

ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	危急種
齧歯目	リス科	滋賀県 希少種 国 -

形態の特徴

生息環境

- 分布状況 -
- 計測値 -

和名：阿部ほか（1994）に従って記載しました。

学名：阿部ほか（1994）に従って記載しました。

彦根市のカテゴリー区分：彦根市による6ランクのカテゴリー区分を適用して記載しました。

目名・科名：目の和名は、日本哺乳類学会種名・標本検討委員会 目名問題検討作業部会（2003）の提案に従い、科の和名は阿部ほか（1994）に従って記載しました。

滋賀県で大切にすべき野生生物によるカテゴリー区分：滋賀県琵琶湖環境部自然保護課（編）（2000）より引用したランキングを記載しました。

環境省のカテゴリー区分：環境省自然環境局野生生物課（編）（2002）より引用したランキングを記載しました。

形態の特徴：標準的体サイズ、形態的特徴等を記載しました。なお、体サイズの数値は基本的に阿部（2000）より引用し、性差の大きい種（イノシシ、ニホンザル、イタチ、チョウセンイタチ）については伊沢（1996）、中谷（1996）、佐々木（1996）に記載されている雌雄別の数値を引用しました。なお、イタチとチョウセンイタチの識別項目として挙げられている尾率とは、頭胴長に対する尾長の割合を%で示した数値です。





生息環境：生息環境や食性、生態などを具体的に記載しました。

- 分布状況 -：調査結果に基づいた市内における分布の概要と、実際に得られた生息情報を【確認】【ドクター制度】【ロード・キル】【フィールド・サイン】【聞き取り】【文献】【彦根市近隣における情報】【写真撮影】【剥製】の項目に分けて記載しました。各項目とも - 情報を得た年月日(情報を得た場所の町名)得た情報の内容 - の順で示し、聞き取りの場合は情報を得た町名は聞き取りを実施した場所の町名を示しました。

捕獲した個体、および収集した遺体の外部計測値を記載しました。なお、多賀町立博物館の所蔵標本として収蔵されているものについては登録番号（TGM ）と標本の状態も示しました。

分布地図について

生息状況は、標準地域メッシュ・システムに従って区画されたメッシュマップ（環境省自然保護局計画課自然環境調査室，1997）の3次メッシュ（基準地域メッシュ）で表現しました。なお、3次メッシュ上での表示は、得られた情報の種類ごとに4パターンに分けて示しています。また、メッシュ内はすべて同じパターンで塗りつぶされていますが、メッシュ内全域で生息情報が得られたのではなく、そのメッシュ内のどこかで生息情報が得られた事を意味しています。

-  ロードキル情報やドクター制度の保護台帳、目撃、捕獲、遺体の採集に基づく情報
-  フィールドサインの確認に基づく情報
-  文献に基づく情報
-  聞き取りによる情報（50年以上前の生息情報も含まれているため、必ずしも現在の分布状況を示すものではありません）

同一メッシュ内に複数の種類の情報がある場合、情報の優先順位を下記のとおりとし、上位の情報をメッシュに記載しています。



- 調査結果 -

科名	種名	分布状況等	国	県	市
	学名				
イヌ科	キツネ	安食中町、・・・			
	Vulpes ...				

科名 種名 学名

今回の調査結果（【確認】【ドクター制度】【ロードキル】【フィールドサイン】の情報のみ）を記載

環境省のカテゴリー区分

滋賀県で大切にすべき野生生物によるカテゴリー区分

彦根市におけるカテゴリー区分

カテゴリーに記載している記号について

環境省		滋賀県		彦根市	
絶滅	EX	絶滅危惧種		絶滅種	A
野生絶滅	EW	絶滅危機増大種		絶滅危惧種	B
絶滅危惧 A 類	CR	希少種		危急種	C
絶滅危惧 B 類	EN	要注目種		希少種	D
絶滅危惧 類	VU	分布上重要種		要注目種	E
準絶滅危惧	NT	その他重要種		要注目種	E
情報不足	DD	絶滅種			

彦根市のカテゴリー区分においては、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種を「要注目種」として位置付けていますが、哺乳類の報告の中ではこれらを細分化し、要注目種（今後の動向を注目すべき種）と要注目種（情報が不足している種）に分けて記載しています。

今回の調査結果で、絶滅のおそれのある種とその現状が明らかになりました。本書において、本来こうした情報をすべて記載し、野生生物の保全に役立つべきものと考えますが、こうした情報の公開にあたっては、逆に希少性という観点から採取されてしまう恐れが発生します。

こうしたことから、貴重な野生生物のうち、特にその分布状況や生息（生育）地について公開すべきでない判断したものについては、部分的に非公開として、記載をひかえています。

オオカミ *Canis lupus*

絶滅種

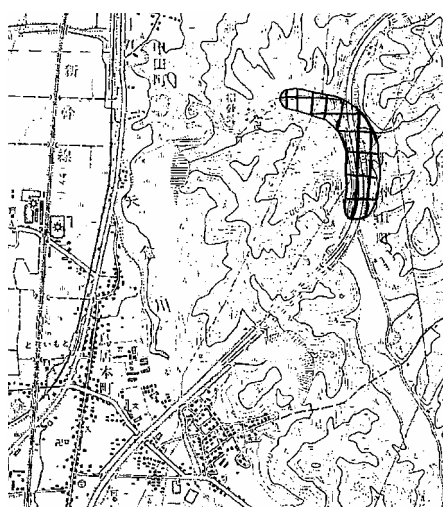
食肉目 イヌ科

滋賀県：絶滅種 国：絶滅種

概要：かつて、本州・四国・九州にはニホンオオカミ (*Canis lupus hodophilax*) とよばれる小型のオオカミが生息していた。このオオカミは、北海道産・ユーラシア大陸産のものとは亜種レベルで区別されているものの、現存している標本が少ないため分類学的な位置付けを再検討するのは困難である。1905年に奈良県吉野郡東吉野村鷲家口（現在の東吉野村小川）で捕獲された記録が、信頼できる最後の確認情報である。

- 情報 -

【聞き取り】H13.7.28（中山町）中山町から摺針峠方面にぬける道（現在トンネルが掘られている所の上の谷）は昔オオカミ谷と呼ばれていた。山の上のほうに生息していたオオカミが、中山町から摺針峠に行くまでの間で出没するので、火打石など火の起こせるものを持ち歩かないと危険だといわれていた。



オオカミ谷の位置（推定）

- コメント -

聞き取り調査で得られたのと同様な、“オオカミにまつわる言い伝え”は「送りオオカミの話」として県内各地に伝えられている。また、多賀町佐目の石灰洞「佐目風穴」では、戦前に行われた発掘調査でオオカミのものと思われる骨が出土している（小牧ほか，1941）。

カワウソ *Lutra lutra*

絶滅種

食肉目 イタチ科

滋賀県：絶滅種 国：絶滅危惧 A類

概要：本州・四国・九州に生息しているカワウソはニホンカワウソ (*Lutra lutra nippon*) として位置付けられ、遺伝的差異に基づき北海道産・ユーラシア大陸産のものとは亜種レベルで区別されている（種レベルで区別する意見もある）。1983年に高知県南部で遺体が確認されて以来、現在まで確実な生息情報は無く、すでに絶滅してしまった可能性も考えられる。彦根市内には、カワウソをモデルとした妖怪にまつわる伝承が伝えられている。また、江戸時代（文化12年：1815年）に藤井重啓という彦根藩士がまとめた図譜「湖中産物圖證」には、琵琶湖と余呉湖に生息している水生生物の1つとしてカワウソが紹介されている（図参照）。

- 情報 -

【聞き取り】(八坂町) 50 年ほど前までカワウソが生息していたとの証言(水面に浮かんでいたり、人をだましたり)があった。H11.11.26(男鬼町)戦前まではカワウソ?がいた。H13.7.28(中山町)見たことはないが、水の中に入るとカワウソに引きずり込まれるという話を聞いたことがある。H13.7.28(服部町)子どもの頃、カワウソがちょうちんの火を消す話を聞いたことがある。



湖中産物圖證のカワウソ絵図

- コメント -

得られた情報の中に、50 年ほど前まではカワウソが生息していたとする証言がある。しかし、ニホンカワウソが生息地を狭め個体数を減少させていった全国的な経過をふまえると、すでにこの頃までに滋賀県内からはニホンカワウソが消滅していたと考えられるため、他の動物の見誤りであった可能性が高い。聞き取り調査では、戦後すぐの頃、宇曾川の下流域で毛皮の利用を目的としたヌートリアの養殖が行われていたとの証言も得ているので、脱糶したヌートリアをカワウソと混同した可能性がもっとも高いのではないかと思われる。

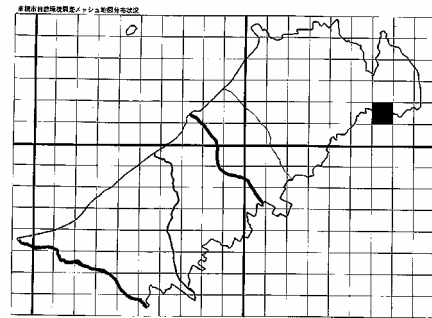
キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum*

絶滅危惧種

翼手目 キクガシラコウモリ科

滋賀県：絶滅危惧種 国：-

形態の特徴：翼は広短型である。鼻葉が発達しており、前葉・中央突起・後葉の3つの部分からなる。後葉はほぼ三角形に尖っている。耳介は大きく、左右に離れ耳珠はない。尾は長く、腿間膜の末端にまで達する。やや暗い褐色系の体毛をもつ。雌は胸に1対の乳頭を持つほか鼠蹊部に1対の偽乳頭を持つ。



(頭胴長：53.0~82.0mm, 前腕長：52.0~65.0mm, 尾長：28.0~45.0mm, 後足長(ツメを含む)：11.0~15.0mm, 耳長：22.5~28.0mm, 体重：17.0~35.0g)

乳頭式：1+0+0=2

歯式：I1/2+C1/1+P2/3+M3/3=32

生息環境：昼間のねぐらや越冬場所として洞穴の入口に近いエリアを利用し、数十頭以上の集団でいることが多い。昆虫類を捕食し、採餌活動は薄明時に活発で、河川敷や森林などで行われる。

- 分布状況 -

今回の調査では山地の石灰洞 1ヶ所のみで生息を確認した。

【確認】H11.8.3 (男鬼町・比婆神社の穴) 1頭確認

- コメント -

ねぐらとして利用可能な洞穴は極めて少ない。また、主用な採餌場となる森林モスギ植林地の拡大などによって失われ、存続基盤は危機的状況と言わざるを得ない。数年間の継続的調査にも関わらず確認できた頭数は 1 頭のみで、こうした状況をふまえ絶滅危惧種として位置付けた。

コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus*

絶滅危惧種

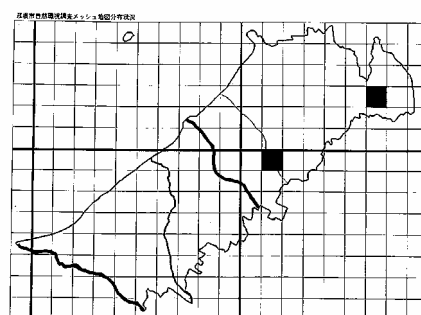
翼手目 キクガシラコウモリ科

滋賀県：絶滅危惧種 国：-

形態の特徴：キクガシラコウモリと外見がよく似ているがより小型。やや明るい褐色系の体毛をもつ。(頭胴長：31.5～50.0mm, 前腕長：36.0～44.0mm, 尾長：16.0～27.0mm, 後足長(ツメを含む)：8.0～9.5mm, 耳長：14.0～19.0mm, 体重：4.5～9.0g)

乳頭式：1+0+0=2

歯式：I1/2+C1/1+P2/3+M3/3=32



生息環境：昼間のねぐらや越冬場所として洞穴の深部を利用し、数十頭以上の集団を作ることが多い。夜間の活動パターンや採餌場所はキクガシラコウモリに似るが、主として小型飛翔昆虫(特にガ類)を採餌する。

備考：日本固有種

- 分布状況 -

今回の調査では、山地の石灰洞と平野部の島状山地(丘)にある鉱山坑道でのみ生息を確認した。

【確認】H14.3.5 (大堀町・大堀マンガン鉱山跡) 3頭が覚醒し坑道内を飛び回っているのを確認, H15.3.29 (男鬼町・男鬼の穴) 懸下している 1 頭を目撃

- コメント -

ねぐらとして利用可能な洞穴は極めて少ない。また、主用な採餌場となる森林モスギ植林地の拡大などによって失われ、存続基盤は危機的状況と言わざるを得ない。数年間の継続的調査にも関わらず確認頭数は極めて少数で、こうした状況をふまえ絶滅危惧種として位置付けた。

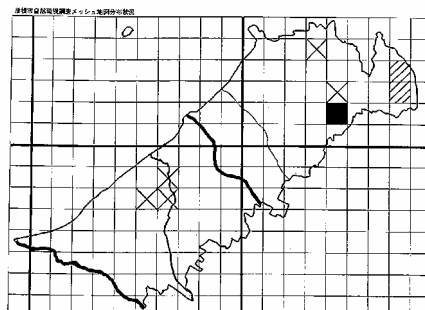
形態の特徴：四肢・指趾は比較的長い。背面は夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色。腹面は1年を通じて白色。冬は、耳介の先端にふさが毛が生じる。足跡は4つ一組で、指印は前足4本、後足5本。(頭胴長：157.0～223.0mm, 尾長：125.0～170.5mm, 後足長：48.0～58.0mm, 耳長：22.0～31.0mm, 体重：250.0～310.0g)

乳頭式：0+2+1=6 あるいは 1+2+1=8

歯式：I1/1+C0/0+P2/1+M3/3=22

生息環境：平野部から亜高山帯までの森林に生息する。種子、果実、キノコ、昆虫などを採食し、樹上に小枝・樹皮などで球形の巣を作る。

備考：日本固有種



- 分布状況 -

今回の調査では、フィールドサインの観察や聞き取り調査により、丘陵地～山地（主に二次林）で生息情報を得た。

【ロード 札】 H12.12.19 (笹尾町) 遺体を収集 (TGM 0113)

【フィールドサイン】 H11.11.26 (男鬼町～鳥居本町) オニグルミの核 (44 個) を採集 (食痕がないもの 16 個・リスによる食痕のあるもの 12 個・アカネズミ類による食痕があるもの 16 個), H14.3.31 (武奈町) オニグルミの核にリスの食痕を確認・杉の樹皮を寄せ集めた巣の残がいを確認

【聞き取り】 H12.5.27 (清崎町) 荒神山で目撃した話を聞いたことがある・50 年前まではいたが最近は見ない, H13.7.28 (中山町) 見かけることがある, H13.7.28 (荘厳寺町) 荘厳寺町のお宮さんの境内に生息している

【彦根市近隣における情報】 H12.5.6 (多賀町後谷) 食痕 (クルミ) を確認

【計測値】

TGM-0113 (本剥製): 成獣 (), 全長: 210.0mm, 頭胴長: 190.0mm, 尾長: 120.0mm, 後足長: 48.0mm, 頭長: 54.0mm, 耳長: 24.0mm, 前腕長: 39.0mm, 体重: 254.9g

- コメント -

生息情報が得られたエリアはかなり狭い範囲に限られていたが、食痕の量的検討から生息密度はそれほど低いようには思われなかった。しかし、荒神山周辺ではかつて生息していたという聞き取り情報が得られたに留まり、他のエリアでも環境の変化に伴って分布域を縮小している傾向が読み取れた。こうした状況をふまえ本種を危急種として位置付けた。

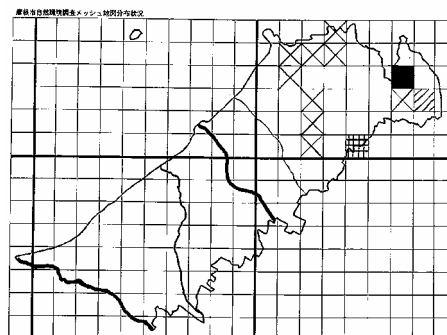
ムササビ *Petaurista leucogenys*

危急種

齧歯目 リス科

滋賀県：希少種 国：-

形態の特徴：飛膜が首から前肢・後肢・尾の基部に発達する。尾は長く円筒状。背面は褐色系の色彩をしているが地域変異が大きい。腹面は白色で、目と耳の間から頬にかけて帯状に淡色の部分（淡色斑）がある。（頭胴長：340.0～483.0mm、尾長：280.0～414.0mm、後足長：60.5～71.0mm、耳長：35.0～43.0mm、体重：700.0～1500.0g）



歯式：I1/1+C0/0+P2/1+M3/3=22

生息環境：平野部から亜高山帯までの天然林・二次林などに生息する。夜行性で、樹上で活動し大木の樹洞に巣を作る。木の芽、葉、花、果実、種子を採食し、人家周辺でも神社やお寺の境内で見られることもある。

備考：日本固有種

- 分布状況 -

直接生体を観察してはいるが、生息情報の大半は聞き取り調査によるものである。山地とその縁辺の丘陵地で生息情報を得ている。

【確認】H16.3.16（男鬼町）目撃

【フィールドサイン】H14.3.31（男鬼町）集落の家屋（3～4軒）の壁面にムササビによりあけられたと思われる穴を多数確認

【聞き取り】H11.10.19（佐和山）15年程前まではいたが最近は全く見かけなくなった，H11.11.26（男鬼町）50年ほど前は毎晩のように集落内を飛び回り屋根裏に入り込んで悪さをしていたが、最近はそうしたこともなくなった，H11（佐和山）10数年前はいた，H12.5.27（正法寺町）5～6年前に飛んでいるのを目撃，H12.8.7（甲田町）1975年頃、お寺の本堂の瓦をめくったらそこに潜んでいたムササビが昼間なのに慌てて逃げていった，H12.8.7（中山町）ツバキの木のつぼみを食べに来ていた，H12.8.27（鳥居本町）1990年頃に男鬼町と武奈町間の関西電力の高圧電線の下あたりで目撃（飛んできてスギの木にぱっとつかまっていた），H13.7.28（中山町）いる

【文献】16：（笹尾町）フィールドサイン確認の記述あり

【彦根市近隣における情報】H13.6（多賀町今畑）目撃

- コメント -

生息情報が得られたエリアはかなり狭い範囲に限られていた。また聞き取り情報には、かつては生息していたが現在では見られなくなったとの証言が複数みられ、分布布域を縮小している傾向が読み取れた。こうした状況をふまえ本種を危急種として位置付けた。

アズマモグラ *Mogera wogura*

希少種

食虫目 モグラ科

滋賀県： - 国： -

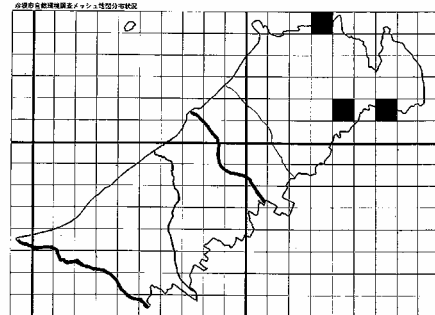
形態の特徴：小型のモグラ（地域差はあるが、モグラ属の中では最も小型の種）。コウベモグラと外見がよく似ているが、上顎門歯がアズマモグラでは浅いV字型、コウベモグラでは円弧状に並ぶ。また、彦根市産の標本で両者を比較すると、明らかにコウベモグラのほうが頭胴長で2~3割大きい。（頭胴長：121.0~159.0mm, 尾長：14.0~22.0mm, 手掌長（ツメを含む）：21.5~27.5mm, 手掌幅：16.5~23.0mm, 後足長：16.0~21.5mm, 体重：48.0~127.0g）

乳頭式：2+1+1・1+2+1=8

歯式：I3/2+C1/1+P4/4+M3/3=42

生息環境：平野部から山地の草原や農耕地・森林に生息する。湿潤で土壌の厚い場所を好む。昆虫やミミズなどの土壌動物を捕食する。

備考：日本固有種



- 分布状況 -

今回の調査では、モールトラップによる捕獲調査を実施した。丘陵地~山地で生息情報を得た。

【確認】H15.11.20(男鬼町)捕獲した(TGM-0213), H16.4.26(仏生寺町)捕獲した(TGM-0222), H16.4.29(中山町)捕獲した(TGM-0223)

【計測値】

TGM-0213(仮剥製)：成獣(), 頭胴長：126.5mm, 尾長：18.0mm, 後足長：16.5mm, 手掌長(ツメを含む)：16.5mm, 手掌幅：17.0mm, 体重：49.1g

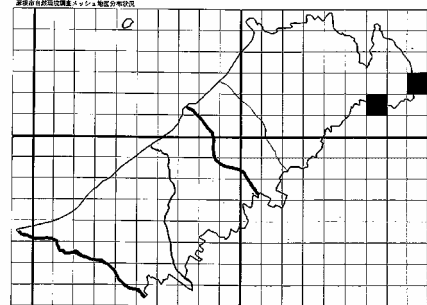
TGM-0222(仮剥製)：成獣(), 頭胴長：121.3mm, 尾長：20.1mm, 後足長：17.0mm, 頭長：41.8mm, 手掌長(ツメを含む・右)：15.7mm, 手掌幅：15.8mm, 精巣(右)：14.2×8.3mm, 精巣(左)：14.0×8.3mm, 体重：63.4g

TGM-0223(仮剥製)：成獣(), 頭胴長：127.5mm, 尾長：14.4mm, 後足長：17.3mm, 頭長：39.3mm, 手掌長(ツメを含む・右)：15.8mm, 手掌幅：16.6mm, 精巣(右)：14.2×8.3mm, 精巣(左)：14.0×8.3mm, 体重：60.1g

- コメント -

捕獲により確実な生息情報を得ているが狭いエリアに限られ、孤立した小個体群と考えられる。コウベモグラとの競合や生息域の環境変化が個体群の維持に影響を与える可能性も考えられるので希少種として位置付けた。

形態の特徴：後足の蹠球数は6個。尾は短く、尾率は40～60%であるが成長に伴って低下する。吻および臼歯列は短く、臼歯は生涯歯根を生じない。背面は赤褐色から黄褐色で腹面は淡黄色。南方に生息している個体の方がより大型。(頭胴長：75.0～115.0mm, 尾長：33.0～55.0mm, 後足長：16.0～18.5mm, 耳長：10.0～13.5mm, 体重：20.0～35.0g)



乳頭式：0+0+2=4 あるいは 1+0+2=6 (繁殖状態などで左右対称でないこともある)

歯式：I1/1+C0/0+P0/0+M3/3=16

生息環境：平野部から山地にかけての森林に生息する。落ち葉・腐植層の厚い湿潤な環境を好み、草本類・種子などを採食する。

備考：日本固有種

- 分布状況 -

今回の調査では、シャーマントラップによる捕獲調査を実施した。山地のごく限られたエリアで、少数の個体を確認した。

【確認】H12.8.9(男鬼町・標高320m)捕獲した(計測値), H12.8.30(男鬼町・標高620m)捕獲した(TGM-0121)

【計測値】

：成獣(), 頭胴長：80.0mm, 尾長：40.0mm, 後足長：15.6mm, 頭長：26.6mm, 耳長：11.1mm, 体重：17.1g

TGM-0121:成獣(), 頭胴長：102.0mm, 尾長：43.0mm, 後足長：16.5mm, 頭長：29.1mm, 耳長：11.5mm, 体重：18.0g

- コメント -

捕獲により確実な生息情報を得てはいるが、生息が確認できたエリアはごく限られていた。また、同所的に生息しているアカネズミなどと比較し、捕獲された個体数は圧倒的に少ない。さらに、生息に適した環境が残されている場所はわずかで、そうした場所も常に改変される可能性をはらんでいる。こうしたことをふまえ、本種を希少種として位置づけた。

カヤネズミ *Micromys minutus*

希少種

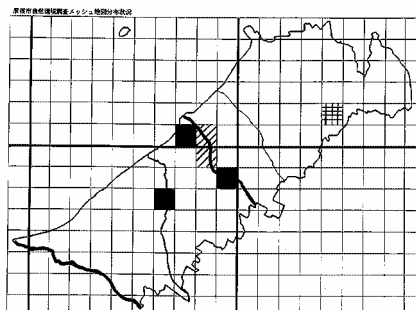
齧歯目 ネズミ科

滋賀県：希少種 国：-

形態の特徴：非常に小さいネズミで吻や耳介は短い。尾は長く、先端は裸出している。手の後方の2掌球は合体して大きな掌球となっている。背面は赤～暗褐色で腹面は白色。(頭胴長:54.0~78.5mm 尾長:47.0~91.0mm, 後足長:14.0~17.0mm, 耳長:7.0~12.0mm, 体重:5.3~14.0g)

乳頭式:2+0+2=8

歯式:I1/1+C0/0+P0/0+M3/3=16



生息環境：平野部の草地・農耕地・河川敷などに生息し、森林内では見られない。イネ科植物が密生した場所で高さ70~110cmに球形の巣を作り(春~秋) 冬季は地下の坑道に住む。雑食性で草本の茎葉や種子・果実・昆虫などを採食する。

- 分布状況 -

今回の調査では得られた情報は少なく、生息が確認できたのは河川敷や農耕地、平野部の島状山地の縁辺といった狭いエリアに限られている。シャーマントラップによる捕獲調査を実施したが、捕獲することはできなかった。捕獲による確認は、いずれも調査参加者よりの情報提供による。

【確認】H11.5.1(宇尾町)捕獲した, H12.2.13(清崎町)捕獲した, H12.3.14(清崎町)捕獲した, H12.3.15(清崎町)捕獲した, H12.3.16(清崎町)捕獲した, H12.4.20(清崎町)捕獲した, H12.4.21(清崎町)捕獲した, H12.5.17(清崎町)捕獲した, H12.8.7(清崎町)捕獲した, H16.11.10(八坂町)死体を採集した(計測値)

【フィールドサイン】H10(開出今町)巣を確認した, H15(開出今町)巣を確認した

【聞き取り】H14(新海町)球巣は40年くらい前までは見たが近頃では見ていない(気がついていないだけかもしれない)

【文献】16:(笹尾町)球巣確認の記述あり

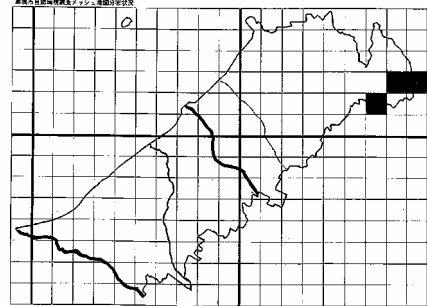
【計測値】

:成獣() 頭胴長:76.0mm、尾長:76.0mm、後足長:15.0mm、頭長:24.0mm、耳長:8.0mm、体重:18.6g、胎子7体(1.07g、1.11g、1.03g、1.03g、0.94g、0.90g、0.79g)

- コメント -

人による活動の影響を受けやすい平野部に生息し、イネ科植物が密生した環境でしか営巣できないなど生息可能な環境が限られている。また、今回の調査結果からは、彦根市内では限られたエリアに低い生息密度で生息していると推定される。これらのことを踏まえ、本種を希少種として位置づけた。

形態の特徴：体は細く、尾は長い（尾率 100%以上）、吻は長く、耳介は顕著。背面は淡赤褐色～暗赤褐色で腹面は白色。尾は先端部まで被毛されている。（頭胴長：71.0～99.0mm，尾長：78.0～109.0mm，後足長：17.0～20.6mm，耳長：11.9～15.5mm，体重：10～23g）
乳頭式：2+0+2=8
歯式：I1/1+C0/0+P0/0+M3/3=16



生息環境：平野部から高山帯までの森林に生息し、落葉・落枝層が厚いところを好む。半樹上性で主に種子・果実類・節足動物を採食する。

備考：日本固有種

- 分布状況 -

今回の調査では、シャーマントラップによる捕獲調査を実施した。山地の限られたエリア（ブナ林や腐植層の発達した2次林といった特定の環境）で生息情報を得た。

【確認】H12.8.13（男鬼町・標高 320m）捕獲した（計測値 ），H12.8.30（男鬼町・標高 620m）捕獲した（計測値 ），H12.8.31（武奈町・標高 530m）捕獲した（TGM-0101），H12.9.1（男鬼町・標高 620m）捕獲した（計測値 ），H15.11.21（男鬼町・標高 510m）捕獲した（計測値 ）。

【計測値】

TGM-0101（本剥製）：成獣（ ），頭胴長：94.5mm，尾長：106.0mm，後足長：20.5mm，頭長：29.1mm，耳長：10.8mm，精巣長径：9.7mm，体重：16.8g

：成獣（ ），頭胴長：90.0mm，尾長：95.0mm，後足長：19.4mm，頭長：29.1mm，耳長：11.9mm，体重：17.2g

：成獣（ ），頭胴長：104.5mm，尾長：99.0mm，後足長：22.5mm，頭長：27.6mm，耳長：9.0mm，精巣長径：12.0mm，体重：15.1g

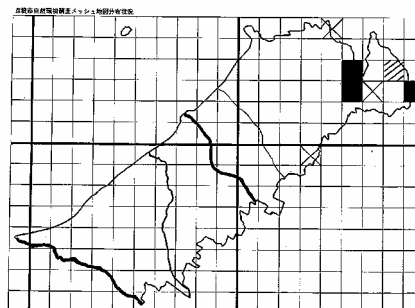
：亜成獣（ ），頭胴長：73.5mm，尾長：45mm+（尾切れ個体），後足長：18.3mm，頭長：27.0mm，耳長：12.4mm，体重：12.1g

：亜成獣（ ），頭胴長：69.0mm，尾長：70.0mm，後足長：17.2mm，頭長：25.8mm，耳長：10.0mm，体重 9.8g

- コメント -

捕獲により確実な生息情報を得てはいるが、生息が確認できたエリアはごく限られていた。また、同所的に生息しているアカネズミなどと比較し、捕獲された個体数は圧倒的に少ない。さらに、生息に適した環境が残されている場所はわずかで、そうした場所も常に改変される可能性をはらんでいる。こうしたことをふまえ、本種を希少種として位置づけた。

形態の特徴：体幹は太く、頭部には雌雄ともに黒い円錐型の短い角を持つ。角は毎年生え換わらず、伸長して角輪が形成される（成体の角長は約13cm）。四肢は太く短い。蹄の数は前後脚ともに4本だが、側蹄（副蹄）は小さく位置が高いので接地することはまれで、通常は足跡には残らない。主蹄は先端が丸い。眼下線・蹄間線はよく発達する。体毛は長く、白色・灰褐色から黒色に近いものまで色彩の変異が大きい。フンは俵型で（平均的大きさは径：1cm・長さ：1.2cm程度で）数100粒以上のためフンを行う。（頭胴長：70～85cm，肩高：70～75cm，体重：30～45kg）



乳頭式：0+0+2=4

歯式：I0/3+C0/1+P3/3+M3/3=32

生息環境：低山帯～亜高山帯にかけての森林（落葉広葉樹林や針広混交林）に生息している。木本類の葉や広葉草本、ササ類などを採食する。通常、20～30haのナワバリで単独生活をし、眼下線の分泌物をこすりつけてマーキングをする。

備考：日本固有種，国指定特別天然記念物

- 分布状況 -

現地踏査（ライトセンサス・フィールドサインの確認）により、確実な生息情報を得ているが生息が確認できたのは山地の狭いエリアに限定される。

【確認】H15.10.2（仏生寺町）目撃，H16.3.16（男鬼町）2頭目撃，H16.3.16（仏生寺町）1頭目撃

【フィールドサイン】H14.3.31（武奈町）タメフンを確認

【聞き取り】H11.10.12（男鬼町）年に数回周辺の山中で目撃，H11.11.26（男鬼町）集落付近では全く見かけない・以前男鬼と甲頭倉との間で目撃，H12.8.7（中山町）米原町の番場から摺針峠へ抜ける道の途中でH11に目撃，H12.8.27（鳥居本町）何回か目撃（15年程前に見たのが初めて・一番最近はH12.5ごろ武奈町と男鬼町の間の上で目撃），H13.7.28（中山町）山盛りになったフンを見ることがある，H13.7.28（荘厳寺町）4～5年前に見たことがある，H17.1.28（正法寺町）野田山町で目撃

【その他】剥製標本が1点保存されているのを確認（鳥居本小学校蔵）：成獣（ ）・1982年1月27日荘厳寺町にて救護され京都市動物園にて治療するも死亡。京都市動物園で剖検。（角輪数：5，肩高：75.0cm，体長（肩甲骨烏口突起～坐骨後端）：100.0cm）

- コメント -

今回の調査でニホンカモシカの生息が確認できたのは、山地（男鬼町～武奈町）の狭いエリアに限定されていた。また、ライトセンサスの際は直接観察する機会もあったが、確認した個

体数は極めて少なく生息密度も低いと推測される。さらに、1990年代中ごろより鈴鹿山脈に生息しているニホンカモシカは少傾向にあると指摘されており（名和・高柳，1997）こうした状況をふまえて本種を希少種として位置付けた。

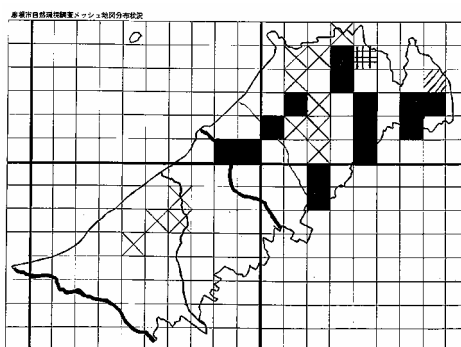
ニホンザル *Macaca fuscata*

要注目種

霊長目 オナガザル科

滋賀県：要注目種 国：-

形態の特徴：尾は極めて短い。毛は長く、背面は茶褐色～灰褐色で、腹と手足の内側が淡白色。顔と尻は裸出して赤い。雌・雄で体サイズに違いがある（>）。（頭胴長：47.0～70.0cm，尾長：5.5～12.0cm，後足長：13.5～17.5cm，耳長：3.7～5.0cm，体重：8.0～18.0kg）
乳頭式：1+0+0=2
歯式：I2/2+C1/1+P2/2+M3/3=32



生息環境：丘陵地～山地の常緑・落葉広葉樹林に生息し、数十頭前後の群れで遊動生活する。昼行性で果実、種子、葉、芽、昆虫などを採餌し、農作物を食害することもある。
備考：日本固有種

- 分布状況 -

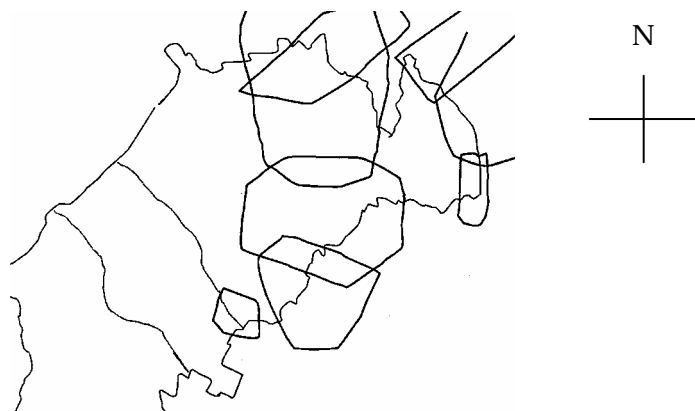
今回の調査では、聞き取り調査やサイン・生体の観察などにより、丘陵地～山地とその縁辺にかけてのエリアで多くの生息情報を得た。なお、平野部の島状山地（荒神山）や市街地でも、少ないが確実な観察例を確認した。

【確認】H11.4～5（中山町・摺針峠）出没，H11.7.1（鳥居本町）出没，H11.7.2（古沢町）出没，H11.8.1（男鬼町・比婆神社）4頭目撃，H11.9.21（笹尾町）2頭目撃，H11.10.12（男鬼町）4頭の群れと1頭のはなれザルを目撃，H12（仏生寺町）目撃，H14.3.5（莊厳寺町）50頭程度の群れが水田雑草を食べていた・フンも植物質を多食した感じで繊維質に富み緑色をしていた，H14.7（開出今町）目撃，H14.9（笹尾町）目撃，H14（野田山町）目撃，H15.7（男鬼町）20～30頭の群れを目撃，H16.4（京町）出没，H16.7（平田町）後三条町に出没，H17.1.28（正法寺町）8頭出没

【ロード・キル】H17.1.31（鳥居本町）遺体を採集した（計測地）

【フィールドサイン】H11.8.3（男鬼町）糞を多量に確認，H11.9.21（笹尾町）食痕（アケビ）と糞（イネの籾殻とアケビの種が含まれていた）を確認，H11.10.12（男鬼町）食痕（アケビ、クリ）を確認，H11.11.26（男鬼町・比婆神社）食痕（クリ）を確認，H11.11.26（男鬼町・比婆神社～集落）で糞多数を確認，H11.11.26（武奈町）糞多数（カキ、イヌタデかハナタデ、ミズヒキの種子、イナゴの体の一部が含まれていた）を確認，H12.12（武奈町）足跡を確認，H14.3.31（武奈町）フン（ケンボナシの種子含む）を確認

【聞き取り】H11.9.21(笹尾)集落付近にてよく出没する、H11.10.19(佐和山)年に1~2回のペースで目撃している・9月にも2回見た、H11.11.26(男鬼町)目撃することもあるがさほど多くない、H12.5.2(清崎町)6~7年に1度はなれザルが迷い込んでくることがある・今までに3回ほどあった、H12.5.2(稲里町)10年ほど前一頭だけ現れた、H12.5.2(日夏町)7年前に一頭現れたことがある、H12.5.2(正法寺町)よく出る・畑の作物を荒らす、H12.8.7(里根町)H11秋に1頭現れた、H12.5.2(原町)鳥居本付近では国道8号線より湖岸の方へは行かないようだ・この付近では、鳥居本中学校の栽培していた作物が荒らされたし、こんこう明王へはよく来ているようだ・原町と荘厳寺町との間の所でも50頭近いサルを目撃している・武奈町の鈴鹿山脈側で20年くらい前サルを沢山見た、H12.5.2(宮田町)H11に1匹やってきて畑のトウモロコシを荒らしていった・今年もサルがいたという話は聞いている、H12.5.2(甲田町)しょっちゅう見かける・ここ15年の間に農作物を頻繁にあらしに来るようになった・名神高速道路の中も平気で通り抜けている・摺り針峠から中山町へ抜ける道の下でH11.9死んでいた、H12.5.2(中山町)1年前に梅ヶ原の信号で国道8号線を横切っていく1頭のサルをみた・国道8号線と摺り針峠の間の道でサルの群れを目撃したが、その中の1頭は他のサルより体が一回り大きく、毛並みもよかった・農作物の被害もひどく、小さな芋まで根こそぎやられ、家の中に入り込んで冷蔵庫をあさるものまで現れた、H12.5.2(古沢町)H11の秋とH12の春に1頭だけ現れ、老人会の農園を荒らされた、H12.8.27(鳥居本町)男鬼町で10頭ほどの小集団をよく見かける・農作物への被害も大きく、花火で脅しても3日くらいしか効き目がない、H13.7.28(中山町)大豆、野菜類がみな食害を受けている、H13.7.28(荘厳寺町)農作物の食害がH12頃から激しくなった・サトイモは食べないが、その他の物は何でも食べる、50~60頭の群れで行動している、H16.5.27(上岡部町)目撃した



ニホンザルの遊動域

(リーフレット「農作物を荒らすサルとうまくつきあっていくために」~「ニホンザル保護管理計画」について~ 2003.10 滋賀県発行より)

【文献】3:(中山町)目撃情報の記述がある

【計測値】

:成獣(), 頭胴長:50.0cm, 尾長:6.0cm, 後足長:15.8cm, 頭長:13.5cm, 耳長:4.5cm, 肩高:35.0cm, 前腕長:18.5cm、体重:9711.5g

- コメント -

滋賀県(2003)は、彦根市の一部を遊動域としている群れは8群あるとしている。今回の調査でも山地とその縁辺を中心に多くの情報が得られ、農作物被害が頻発している状況も明らかとなった。また、まれにハナレザルと思われる個体が市街地にも出没している模様で、このような状況を受けて追い上げや有害鳥獣駆除も実施されている。個体群の維持に直接深刻な影響を与えると思われる要素は今のところないと思われるが、このような人間との軋轢が生じやすい実態を受けて要注目種として位置付けた。

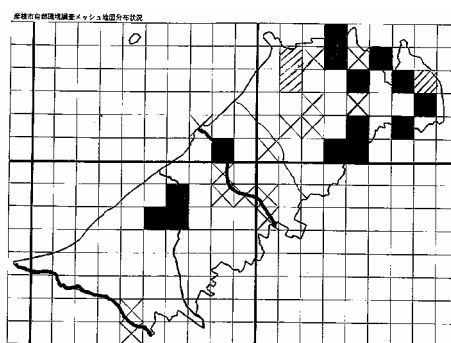
ノウサギ *Lepus brachyurus*

要注目種

兔形目 ウサギ科

滋賀県： - 国： -

形態の特徴：耳介と後足が長い。耳介の基部は円筒状。前足には5本の指があるが第1指は小さい。後足の裏は密毛で覆われる。爪は直線状で尖っている。尾は短いが目立つ。毛は背面が褐色系だが変異が大きく、腹側は白色で、耳の先端が黒い。多雪地帯では、冬になると耳の先端を除き全身白色になるものもある。フンは直径0.5~1.5cm、厚さ1cm程の平たい球形で、冬は黄褐色でかたく、夏は黒色でやわらかい。(頭胴長：430~537mm,尾長：19.7~54.0mm,後足長：127.0~148.0mm,耳長：61.5~81.0mm,体重：1300.0~2500.0g)



歯式：I2/1+C0/0+P3/2+M3/3=28

生息環境：平野部~山地の草原・森林に生息し夜行性。草本類や樹皮を採食し、巣は作らない。

備考：日本固有種

分布状況

今回の調査では、聞き取り調査やサイン・生体の観察などにより、平野部から山地にいたるまで、広い範囲で生息情報を得た。

【確認】H10(開出今町)目撃,H11.8(荒神山)目撃,H12(笹尾町)目撃,H14.6.5(男鬼町)目撃,H14.6.5(武奈町)目撃,H14.6.5(中山町)目撃,H14.6.29(原町)目撃,H15.9.18(男鬼町)2匹目撃,H15.10.2(笹尾町)1匹目撃,H15.10.2(男鬼町)3匹目撃,H16.3.16(中山町)目撃

【ロード・キル】H14.6.11(下矢倉町)行政資料より,H15.6.5(甲田町)行政資料より

【フィールド・サイン】H11.11.26(男鬼町・比婆神社~集落)糞(径1.2~1.4cm フユイチゴの種が含まれていた)を多数確認,H13.3.24(宮田町)フンを確認,H13.3.24(古沢町)フンを確

認, H14.3.31 (男鬼町) フンを確認, H14.3.31 (武奈町) フンを確認, H16.1.25 (荒神山) 足跡と糞を確認した

【聞き取り】 H11.10.19 (佐和山) キツネが増えてきたのとの関係があるのかどうか判らないが減ってきている・最近あまり目撃しなくなった, H11.11.26 (男鬼町) いることはいるようだが最近あまり目撃しなくなった, H12.5.27 (清崎町) 減ってきた・終戦後すぐくらいの時は一斗缶をたたいてウサギを茂みから追い出し捕まえて食料の足しにしていた・2~3年前にタカがウサギをつかんだまま飛んでいるのを見たのが最後・以前は沢山いたが終戦後減った・旧制彦根東中学校の生徒がよくウサギ狩りをしていた, H12.5.27 (稲里町) いることはいるが減ってきた, H12.5.27 (日夏町) 雨壺山で40年くらい前に見た, H12.5.27 (正法寺町) H12.5 にネコがくわえてきた, H12.7.5 (甘呂町) 犬上川流域周辺は今はウサギはいないが50年前までは沢山いた, H12.8.7 (里根町) いる, H12.8.7 (原町) 50年前に野田山~原の山にかけて鳥居本中学校の生徒がよくウサギ狩りをしていた・今年も名神高速道路をこえてすぐ山側のところでウサギの子を見た, H12.8.7 (宮田町) 佐和山には1960年ころまでは沢山いて捕まえていた・今では見ない, H12.8.7 (甲田町) 50年ほど前までは沢山いた・よく罠をしかけて捕まえたが、今ではあまり見かけなくなった, H12.8.7 (中山町) 子どもの頃はよく見たが、近頃ではあまり見かけない・いることはいる, H12.8.7 (古沢町) 昔は沢山いたがここ10年みたことがない, H12.8.27 (鳥居本町) 男鬼町にいることはいるが数が減ったように感じる, H13.7.28 (中山町) 以前はたくさんいたが20年ほど前から減ってきたように感じている・中山投棄場の田をはさんで北側にある水路には以前は大きなウサギがたくさんいて、置き針で捕まえることができた, H13.7.28 (荘厳寺町) 田の中に2~3匹いるのを見たことがある, H13.7.28 (新海町) 終戦直後の頃はフンをたくさん見ていたが今では全く見かけない・八幡橋付近で昭和15~16年頃旧制中学の行事でウサギ狩りをやっていた, H15.4.18 (安清町) 昨年10月ごろ荒神山入り口(日夏町)で3頭見た, H15.4.22 (稲里町) 10年程前に中腹の舗装道路をキツネに追いかけられ駆け降りてきたのを目撃, H15.12.5 (稲里町) 昔は田畑で良く見かけたが近年は見ない

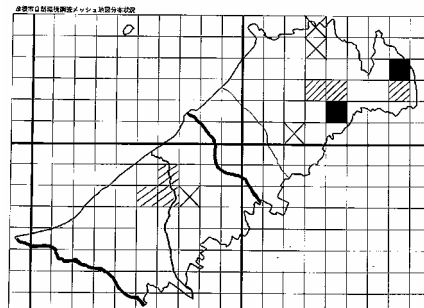
【文献】16:(笹尾町) フン確認の記述あり

【彦根市近隣における情報】 H12.5.6 (多賀町後谷) 糞を多数確認, H15.9.18 (米原市番場) 2匹を目撃した

- コメント -

彦根市内での生息情報はそれほど少ない訳ではないが、平野部ではかつては生息していたが現在は見られなくなったとの聞き取り情報が大半を占めている。また、山地においても直接観察してはいるものの、確認できたのは特定のエリアに限られている。こうしたことから今後の変化に注意を払う必要があると考え要注目種として位置付けた。

形態の特徴：細長い体型で、四肢と尾は比較的長い。また、吻は長く尖り、耳介も大きい。尾の毛は長い。体幹の毛は鮮やかな黄色をしたものから褐色のものまで変異に富むが、四肢の末脚は黒い。顔面も淡灰色～黒色まで個体により多様で、黒色部の範囲も一様ではない。両足を揃えて跳ねるようなロコモーションをするため、左右の足跡は横に並ぶ。



(頭胴長：450.0mm，尾長：200.0mm，後足長：75.0～98.0mm，耳長：31.5～45.0mm，体重：1000.0～1500.0g)

歯式：I3/3+C1/1+P4/4+M1/2=38

生息環境：森林に生息し通常は樹洞に営巣するが、人家周辺などに生息する場合は人家の天井裏を利用することもある。鳥類・小型哺乳類・爬虫類・両生類・昆虫類などの小型動物を捕食するほか果実類も採食し、比較的植物質への依存度は高い。単独で生活する。

備考：彦根市周辺ではイタチ・チョウセンイタチも含め“テンコチ”と呼称し、3種を意識的に区別していない。

- 分布状況 -

今回の調査では、丘陵地～山地にかけてとその縁辺、平野部の島状山地（荒神山）で生息情報を得た。なお以下に“テン”として聞き取った分布情報も掲載しているが、イタチやチョウセンイタチと混同した情報も含まれている恐れがある。

【確認】H14.6.5（武奈町）目撃した，H15.9.18（笹尾町）目撃した

【フィールドサイン】H11.11.26（男鬼町～鳥居本町）糞（ケンボナシの種子を含む）を確認した，H12.5.6（男鬼町）糞（黒いタール状・小型ほ乳類の毛やオサムシの体の一部が含まれていた）を確認した，H12.5.6（多賀町後谷～仏生寺町）糞（黒いタール状・ケンボナシの種子・ムカデ・甲虫の体の一部を含む）を確認した，H13.3.24（鳥居本町）フンを確認，H14.3.5（鳥居本町）液果を多食したフンを確認した，H14.3.31（男鬼町）フン（サワグルミ？・カエル・甲虫の破片・小鳥の骨・小鳥の羽根を含む）を確認した，H15.4.17（荒神山）糞を確認した

【聞き取り】H11（正法寺町）H4 ごろは生息していた，H11.11.26（男鬼町）よく目撃する，H12.5.27（稲里町）生息している，H12.5.27（日夏町）部屋の中に入って、屋根裏に穴をあけたりさんざん悪さをした（2週間くらい居座った），H12.8.7（甲田町）生息している，H12.8.7（中山町）天井に入り込んで様子（天井で見たフンの中にアケビの種が含まれていた），H13.7.28（中山町）生息している，H13.7.28（荘厳寺町）生息している（屋根のたる木の隙間から家の中に入り込み、保存していたリンゴを食べられてしまった），H15.4.22（稲里町）荒神山でしばしば見かける

【彦根市近隣における情報】H12.1.18（多賀町栗栖）ロードキル遺体を確認した，H13.1.11

(甲良町池寺)ロードキル遺体を確認した, H13.7.26(多賀町久徳)ロードキル遺体を確認した, H17.4.23(多賀町多賀)ロードキル遺体を確認した(計測値)

【その他】剥製標本が1点保存されているのを確認(鳥居本小学校 蔵):成獣(矢倉町の住人より鳥居本小学校へ寄贈されたもので詳しい来歴は不明。

【計測値】

:成獣(),頭胴長:375.0mm,尾長:178.0mm,後足長(左):73.0mm,頭長:94.0mm,耳長(左):35.0mm,前腕長(左):64.0mm,肩高:140.0mm,体重:836.8g

- コメント -

生息情報は丘陵地~山地に限られているが、もともと森林性の動物であり、フィールドサインの確認頻度などから考えても現在のところ生息状況に特に問題があるとは思われない。しかし、近年生息確認情報が増えつつあるハクビシンとは生態・食性が似かよっていることから競合する可能性が考えられ、注意が必要である。さらに、荒神山周辺に生息している個体群は孤立しており、ひとたび何らかのダメージが与えられただけで個体群が存続できなくなる状況にもなりかねない。こうしたことから今後の変化に注意を払う必要があると考え、ここでは本種を要注目種として位置付けた。

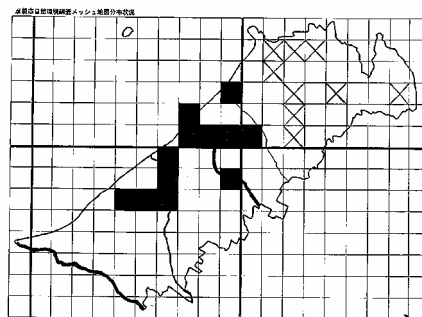
イタチ *Mustela itatsi*

要注目種

食肉目 イタチ科

滋賀県: - 国: -

形態の特徴:細長い体型で四肢は短い。吻は短く、耳介は小さい。尾は頭胴長より短く(通常は尾率:50%以下)、尾の毛は短い。背面は、夏毛では暗褐色、冬毛では明褐色。腹面は淡色。顔面は、額中央部から鼻鏡部にかけては濃褐色で口角部や下顎部は白色であることが多い。雌・雄で体サイズの違いが大きい(>)。(頭胴長:270.0~



370.0mm,尾長:120.0~160.0mm,体重:290.0~650.0g 頭胴長:160.0~250.0mm,尾長:70.0~90.0mm,体重:115.0~175.0g)

歯式: I3/3+C1/1+P3/3+M1/2=34

生息環境:平野部~山地にかけての森林・河畔・人家周辺などに生息し、水辺を好む。鳥類・小型哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・昆虫類・甲殻類などの小型動物を捕食する。

備考:日本固有種、彦根市周辺ではテン・チョウセンイタチも含め“テンコチ”と呼称し3種を意識的に区別していない

- 分布状況 -

イタチとチョウセンイタチは外見がよく似ているため、捕獲個体やロードキル遺体などを直接計測・観察した場合を除いて情報の信頼性は低いと言わざるを得ない。以下には、“イタチ”として聞き取った分布情報も掲載しているが、チョウセンイタチやテンと混同した情報も含まれている恐れがある。彦根市内におけるイタチの確実な生息情報は極めて少ないが、近隣地域での生息情報や聞き取り情報の中でより信頼性の高いと思われるものを合わせて考慮すると、丘陵地～山地にかけてとその縁辺、平野部の島状山地に生息している状況が推測できる。

【確認】H10（八坂町）捕獲した（ネズミ類調査の際に混獲）、H11.9.28（日夏町・荒神山）捕獲（1頭）した（ネズミ類調査の際に混獲）、H12.10.28（日夏町・荒神山）捕獲した（ネズミ類調査の際に混獲）（計測値）

【聞き取り】H11.10.19（佐和山）家の屋根裏などに入り込んでよく暴れている、H11.11.26（男鬼町）よく目撃する、H11（雨壺山）生息している、H12.5.27（日夏町）あまり見かけないがいることはいる、H12.5.27（稲里町）いる・ニワトリが襲われた、H12.5.27（日夏町）台所に入り込んで悪さをしたりふすまに穴をあけたりした、H12.5.27（正法寺町）いる、H12.8.7（中山町）数日前に見た、H13.7.28（中山町）やや小さいテンに似た動物がいる、H13.7.28（荘厳寺町）イタチと思われる動物はいる、H15.4.22（稲里町）荒神山でしばしば見かける

【彦根市近隣における情報】H12.11.12（多賀町久徳）ロードキル遺体を採集（TGM 0109）、H13.2.9（多賀町中川原）ロードキル遺体を確認（計測値）

【計測値】

TGM 0109：成獣（ ），頭胴長：310.0mm，尾長：130.0mm，後足長：51.6mm，頭長：65.8mm，後足長：52.5mm，頭長：69.5mm，耳長：14.0mm，前腕長：36.5mm，体重：470.0g

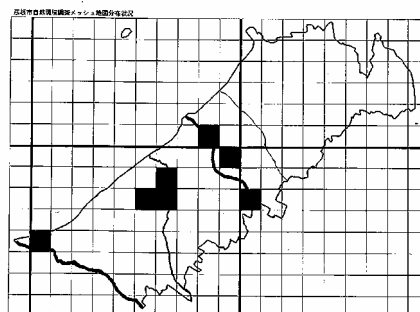
H12.10.28 日夏町（荒神山）、成獣（ ），頭胴長：270.0mm，尾長：130.0mm，後足長：51.6mm，頭長：65.8mm，耳長：16.4mm，前腕長：38.0mm，体重：365.0g

：成獣（ ），頭胴長：355.0mm，尾長：155.0mm，後足長：61.0mm，頭長：68.0mm，後足長：61.0mm，耳長：20.0mm，前腕長：45.0mm

- コメント -

チョウセンイタチとの識別が難しいため、得られた生息情報もやや不明確で適切な評価をするのは困難である。また、イタチとチョウセンイタチは競合していると考えられるが、今回の調査では平野部でのイタチの確実な生息情報は得ておらず、イタチがチョウセンイタチによって駆逐されつつあると想像される。こうしたことから今後の変化に注意を払う必要があると考え、ここでは本種を要注目種として位置付けた。

形態の特徴：イタチと外見がよく似ているが、より大型で尾が長い(通常は尾率:50%以下)。体色は全体にイタチより明るく山吹色を呈する。口角部と下顎部は白色。雌・雄で体サイズの違いが大きい(>)。
 (頭胴長:280.0~390.0mm,尾長:160.0~210.0mm,体重:650.0~820.0g 頭胴長:250.0~310.0mm,尾長:130.0~160.0mm,体重:360.0~430.0g)
 歯式: I3/3+C1/1+P3/3+M1/2=34



生息環境：平野部～山地縁辺にかけての森林・農耕地・人家周辺などに生息する。鳥類・小型哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・昆虫類・甲殻類などの小型動物を捕食するほか、果実類も採食する。

備考：外来種(国内移入種),彦根市周辺ではテン・イタチも含め“テンコチ”と呼称し3種を意識的に区別していない

分布状況

チョウセンイタチの認知度が低いことから、行政資料の洗い出しや住民への聞き取りによって生息情報を得ることはできなかった。このため、得られた情報総数は多いとはいえないが、ネズミ類調査の際の混獲個体やロードキル遺体の確認、至近距離での直接観察などに限定され、その信頼性は高い。今回の調査では、平野部と島状山地(荒神山)縁辺の農耕地・住宅地・川辺林などで生息情報を得た。

【確認】H10(八坂町)捕獲した(ネズミ類調査の際に混獲),H11(荒神山)捕獲した(ネズミ類調査の際に混獲),H17.3(大藪町)目撃した

【ロードキル】H7.11(小泉町)遺体を採集した(TGM 0025:骨格標本),H11.10.10(小泉町)遺体を確認した(計測値),H11.11(野瀬町)(計測値),H12.9.29(戸賀町)遺体を確認した,H13.12.21(高宮町)(計測値),H15.5.11(開出今町)遺体を確認した(計測値),H13.10.3(大堀町)遺体を確認した,H14.1.24(戸賀町)遺体を確認した,H14.4.11(日夏町)遺体を確認した(TGM 0131),H14.9.2(新海町)遺体を確認した,H15.4.6(八坂町)遺体を採集した(TGM 0198),H16.8.31(新海町)遺体を確認した

【彦根市近隣における情報】H12.4.19(多賀町中川原)ロードキル(計測地),H12.7.20(甲良町法養寺)ロードキル,H12.7.14(多賀町中川原)ロードキル(計測地),H12.9.22(多賀町久徳)ロードキル(TGM 095),H12.12.28(多賀町多賀)ロードキル

【計測値】

TGM 0095:成獣(),頭胴長:380.0mm,尾長:190.0mm,後足長(右):58.0mm,頭長:80.0mm,耳長:25.0mm,前腕長:52.0mm,体重:855.9g

TGM 0131：成獣()，頭胴長：352.0mm，尾長：191.0mm，後足長(右)：56.0mm，頭長：66.0mm，耳長：23.0mm，前腕長：45.0mm，体重：838.5g

TGM 0198：八坂町 150406 成獣()頭胴長：386.0mm，尾長：192.0mm，後足長(右)：57.7mm，頭長：65.0mm，耳長(右)：27.0mm，前腕長(右)：50.5mm，胸囲：188.0mm，体重：1146.5g

：成獣()，頭胴長 350.0mm，尾長：200.0mm，後足長：60.0mm，耳長：20.0mm，前腕長：50.0mm

：成獣()，頭胴長：280.0mm，尾長：140.0mm，後足長：39.0mm，頭長：60.0mm，耳長：16.0mm，前腕長：37.0mm，体重：264.5g

：成獣()，頭胴長：305.0mm，尾長：165.0mm，後足長：50.0mm，頭長：80.0mm，耳長：10.0mm，前腕長：45.0mm

：成獣(性不明)頭胴長：490.0mm？，尾長：180.0mm，後足長：30.0mm，頭長：70.0mm，耳長：30.0mm，体重：700.0g

：成獣()，頭胴長：341.0mm，尾長：170.0mm，後足長(右)：55.0mm，頭長：67.0mm，耳長：18.0mm，前腕長(右)：44.0mm，体重：968.0g

：成獣()，頭胴長：395.0mm，尾長：207.0mm，後足長(右)：67.0mm，頭長：95.0mm，耳長：20.0mm，前腕長(右)：65.0mm

- コメント -

チョウセンイタチは外来種(あるいは国内移入種)であるが、彦根市付近は分布の東限(愛知県西部)に近いことから進入・定着してからまだあまり時間が経過していないと想像される。また、イタチと競合してすでにその分布に影響を与えているように思われるが、今後、他の在来種や地域の生態系そのものに影響を及ぼす可能性もある。こうしたことからその動向に注意を払う必要があると考え、ここでは本種を要注目種として位置付けた。

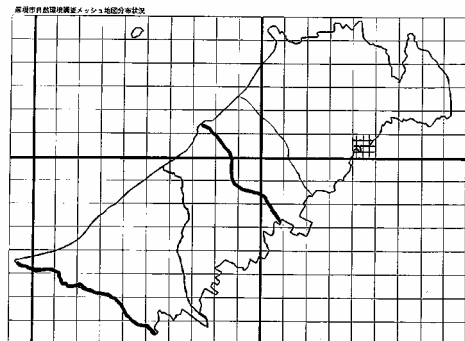
ハクビシン *Paguma larvata*

要注目種

食肉目 ジャコウネコ科

滋賀県：生態系に悪影響を及ぼす外来種・移入種 国：-

形態の特徴：体幹は長く四肢はやや短い。趾行性で5指趾を持つ。尾は長い。吻は長く尖り、長い口ヒゲがある。会陰線が発達している。毛は背面が灰褐色、顔面・後頸・四肢・尾は黒色で鼻から後頭にかけて白帯がある。眼の上下と耳介の前部も白色。乳頭は2対。(頭胴長：47.5~53.3cm，尾長：37.0~43.2cm，後足長：7.3cm~8.7cm，耳長：3.9~5.2cm，体重：2.0~3.5kg)
歯式：I3/3+C1/1+P4/4+M2/2=40



生息環境：平野部～低山帯の森林・農耕地や人家の周辺に生息している。木登りが巧みで果実を採食するほか、昆虫類・陸貝・両生類・爬虫類・鳥類・小型哺乳類などを捕食する。

備考：国内の分布は不連続で外来種とされている。各地の果樹園などで、果実を食害する被害が報告されている。

- 分布状況 -

今のところ彦根市内での生息情報は笹尾町1ヶ所のみである。しかし隣接している米原町や多賀町では確認例が増加しつつあり、彦根市内でも今後確認例が増えると予想される。

【文献】18：(笹尾町)ロボットカメラで撮影したとの記述がある

【彦根市近隣における情報】H12.9.30(米原町樋口)ロードキル

- コメント -

本種の出没情報には今後も注意を払うとともに、農作物への加害や生態系へ影響が及ぶのを防ぐ手段を講じる必要がある。

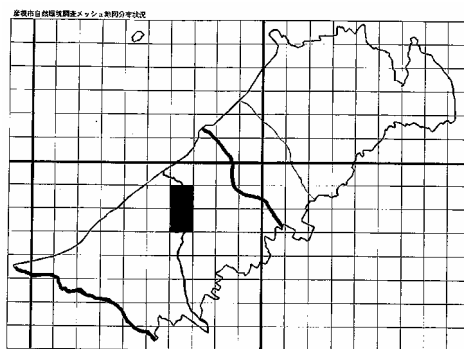
ジネズミ *Crocidura dsinezumi*

要注目種

食虫目 トガリネズミ科

滋賀県： - 国： -

形態の特徴：体つきは細身で小さい。四肢は短く、尾は基部が太く先端に向かって細くなる(尾率70%以下)。また、吻は細く尖りV字状をしている。耳介はよく発達し、毛よりも外に出る。目は小さいがはっきり認められる。毛は、背面が暗赤褐色～暗褐色、腹面が淡色から淡灰褐色で、変異に富む。(頭胴長：61.0～84.0mm, 尾長：39.0～54.0mm, 後足長：11.5～15.0mm, 耳長：7.1～9.1mm, 体重：5.0～12.0g)
乳頭式：0+1+2・0+0+3=6
歯式：I3/1+C1/1+P1/1+M3/3=28



生息環境：平野部の河畔や低木林・農耕地周辺の草地・低山帯の森林などに生息する。昆虫やミミズなどの土壌動物を捕食する。

- 分布状況 -

今回の調査では、フォールトラップなどを用いた捕獲調査は実施しなかった。このため、生息情報はネズミ類調査の際の混獲例などに限られる(捕獲による確認は、調査参加者よりの情報提供による)。これまでに日夏町の荒神山周辺のみでしか生息情報を得られていない。

【確認】H11.7.5（清崎町）捕獲した，H12.10.24（日夏町：荒神山）捕獲した（TGM-0104）

【計測値】

TGM-0104（本剥製）：成獣（ ），頭胴長：60.0mm，尾長：45.0mm，後足長：12.5mm，
頭長：26.6mm、耳長：7.7mm、前腕長：10.0mm，体重：6.7g

- コメント -

彦根市内での生息情報は極めて限定的であるが、国内の他地域における生息状況から考えて、本種が特に生息基盤の脆弱な種であるとは思われない。このため要注目種 として位置付け、今後の情報の蓄積を期待する。

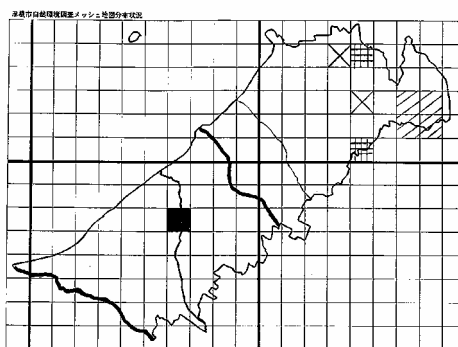
ヒミズ *Urotrichus talpoides*

要注目種

食虫目 モグラ科

滋賀県： - 国： -

形態の特徴：小型のモグラ。吻は細長く、鼻孔は横向きに開く。手掌はやや大きい、幅は長さより小さい。尾は太く棍棒状で、頭胴の約 1/3 の長さである。毛は背面が黒褐色で腹面はやや淡色。尾には長く粗い毛が生えブラシ状を呈する。
（頭胴長：89.0～104.0mm，尾長：27.0～37.0mm，手掌長（ツメを含む）：12.0～15.5mm，手掌幅：5.0～7.0mm，後足長：13.8～16.0mm，体重：14.5～25.5g）



乳頭式：1+0+2・1+1+1=6

歯式：I2/1+C1/1+P4/3+M3/3=36

生息環境：低山帯の草原・低木林などに生息する。落葉層や腐植層の厚い所を好み、半地下性の生活をしている。昆虫やミミズなどの土壌動物を捕食する。

備考：日本固有種

分布状況

今回の調査では、フォールトラップなどを用いた捕獲調査は実施しなかった。このため、得られた生息情報はネズミ類調査の際の混獲例やトンネルの観察による推定、聞き取り結果などが主で、情報量もあまり多くない。丘陵地～山地とその縁辺および平野部の島状山地で生息情報を得た。

【確認】H12.1.19（日夏町）捕獲した

【フィールドサイン】穴の深さ（浅い）や幅（狭い）から本種のものと考えられる坑道を確認している。

H11.10.12（男鬼町）坑道を4本確認，H12.5.6（男鬼町）坑道を10本以上確認，H11.11.26（男鬼町～武奈町）坑道を多数確認

【聞き取り】H13.7.28(中山町)小さくて黒い毛のモグラがいる, H13.7.28(荘厳寺町)ヒミズが掘ったと思われる小さい坑道を見ることがある

【文献】3:(中山町)捕獲したとの記述がある, 16:(笹尾町)遺体を確認したとの記述がある

- コメント -

今回の調査では、生体や遺体を直接確認することができず、得られた生息情報も限定的であった。しかし、国内の他地域における生息状況から考えて、本種が特に生息基盤の脆弱な種であるとは思われない。このため要注目種として位置付け、今後の情報の蓄積を期待する。

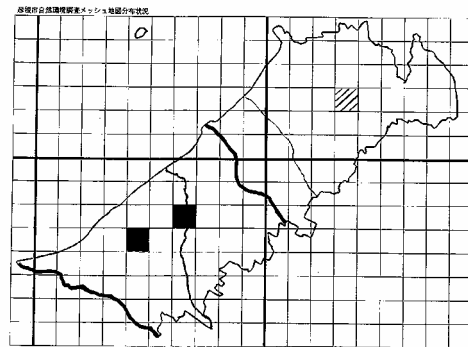
ハタネズミ *Microtus montebelli*

要注目種

齧歯目 ネズミ科

滋賀県： - 国： -

形態の特徴：後足の蹠球数は5か6。臼歯は生涯歯根を生じない。背面は黄褐色または灰黄赤色で、腹面は灰白色。南方に生息している個体の方がより大型。(頭胴長：95.0～136.0mm, 尾長：29.0～136.0mm, 後足長：16.5～20.4mm, 耳長：10.0～12.2mm, 体重：22～62g) 乳頭式：2+0+2=8 歯式：I1/1+C0/0+P0/0+M3/3=16



生息環境：平野部から山地にかけての農耕地や植林地、河川敷などに生息する。草原的環境を好み、地表直下に坑道を作る。緑色の草本や農作物の根茎を採食する。

備考：日本固有種。時に、生息密度が極端に高まり農作物への加害が深刻化することがある。

- 分布状況 -

今回の調査ではシャーマントラップによる捕獲調査を実施したが、捕獲することはできなかった。捕獲による確認は、調査参加者より情報提供を受けた1例のみであった。偶然採集した遺体の情報と坑道の観察例を合わせ、今のところ平野部の限られたエリア(3ヶ所)でしか生息情報を得ていない。

【確認】H11.5.25(清崎町)捕獲した, H15.3.11(下西川町)遺体を採集した(TGM-0197)

【フィールドサイン】H14.3.5(鳥居本町)本種と考えられる坑道を確認

【計測値】

TGM-0197: 亜成獣(), 頭胴長：68.40mm, 尾長：23.80mm, 後足長：14.40mm, 頭長：23.20mm, 耳長：8.10mm, 前腕長：12.0mm, 体重：8.8g

- コメント -

彦根市内での生息情報は極めて限定的であるが、国内の他地域における生息状況から考えて、本種が特に生息基盤の脆弱な種であるとは思われない。このため要注目種として位置付け、今後の情報の蓄積を期待する。

ドブネズミ *Rattus norvegicus*

要注目種

齧歯目 ネズミ科

滋賀県： - 国： -

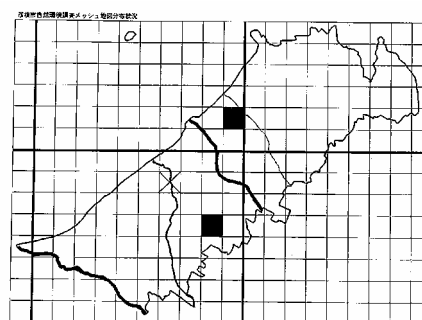
形態の特徴：大型のネズミ。尾率は68～99%で耳介は短

く（前方に倒しても目に達しない）肉厚。

背面は褐色または灰褐色で、腹面は灰色か黄色味がかかった白色。（頭胴長：186.0～280.0mm，尾長：149.0～220.0mm，後足長：34.0～42.0mm，耳長：18.0～20.0mm，体重：150.0～500.0g）

乳頭式：（変異が大きい）1+1+2・2+1+2・2+2+2・3+0+3・3+1+2=8～12

歯式：I1/1+C0/0+P0/0+M3/3=16



生息環境：人の居住域に広く生息し、湿ったところを好む。また、野外でも水田周辺や山林などで地面に穴を掘りその中で生活をするところがある。夜行性だが、妨害のない状態では昼間も活動する。雑食性で植物の根茎などを採食するほか、昆虫類・小型哺乳類・鳥類の卵やヒナを捕食することもある。

備考：汎世界的に分布する

- 分布状況 -

今回の調査では、シャーマントラップによる捕獲調査を実施したが、市街地周辺では実施しなかったためか捕獲には成功していない。平野部の住宅地で2件の生息情報を得たにとどまる。

【確認】H11.10（大藪町）遺体を採集，H15.10（南川瀬町）捕獲した

【聞き取り】H12.5.27（荒神山）比較的大型のネズミを目撃

- コメント -

彦根市内での生息情報は極めて限定的であるが、国内の他地域における生息状況から考えて、本種が特に生息基盤の脆弱な種であるとは思われない。このため要注目種として位置付け、今後の情報の蓄積を期待する。

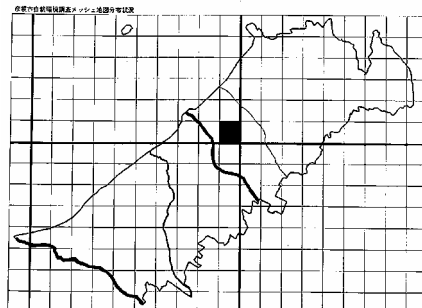
クマネズミ *Rattus rattus*

要注目種

齧歯目 ネズミ科

滋賀県 - 国 -

形態の特徴：ドブネズミに似るがやや小型。尾は太く、尾率 95%以上。耳介は薄く長い（前方に倒すと目に達する）。体毛に長い刺し毛を持つ個体が多い。背面は黒色～灰褐色で、腹面は灰色か黄色味がかかった白色。（頭胴長：146.0～240.0mm，尾長：150.0～260.0mm，後足長：28.5～35.0mm，耳長：21.0～25.0mm，体重：150.0～200.0g）
乳頭式：2+0+3=10 あるいは 2+1+3=12
歯式：I1/1+C0/0+P0/0+M3/3=16



生息環境：人の居住域に広く生息し、建物の天井裏など比較的乾燥したところを好む。雑食性であるが植物質への依存傾向が強い。

備考：汎世界的に分布し、ペストノミの媒介者としてよく知られる。

- 分布状況 -

今回の調査では、シャーマントラップによる捕獲調査を実施したが、市街地周辺では実施しなかったためか捕獲には成功していない。平田町の住宅地で1件の生息情報を得ているのみである。

【確認】H15.1～2（平田町）生体を目撃

- コメント -

彦根市内での生息情報は極めて限定的であるが、国内の他地域における生息状況から考えて、本種が特に生息基盤の脆弱な種であるとは思われない。このため要注目種として位置付け、今後の情報の蓄積を期待する。

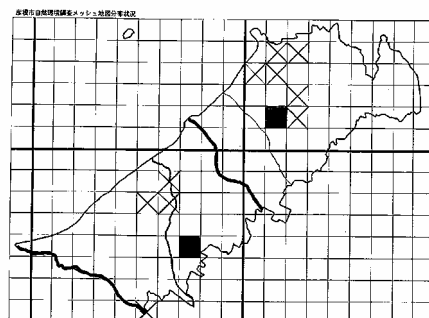
ハツカネズミ *Mus musculus*

要注目種

齧歯目 ネズミ科

滋賀県： - 国： -

形態の特徴：小型のネズミ。耳介は比較的大きく、尾は長い。上顎の切歯は、先端後側に切れ込みがあり下後方を向く。毛は短く、背面は赤味のない褐色で、腹面は白色（毛の基部のみ淡いスレート色）。（頭胴長：58.0～84.0mm，尾長：47.0～80.0mm，後足長：14.0～17.0mm，耳長：10.5～13.0mm，体重：6.5～15.5g）
乳頭式：1+2+2=10



歯式：I1/1+C0/0+P0/0+M3/3=16

生息環境：人の居住域に広く生息し、家屋内のほか農耕地・河川敷など水はけのよい環境を好む。草本類・種子・根茎を採食し、昆虫類なども捕食する。

備考：汎世界的に分布する

- 分布状況 -

今回の調査では、シャーマントラップによる捕獲調査を実施したが、市街地周辺では実施しなかったためか捕獲には成功していない。主に聞き取り調査によって、平野部の住宅地や農耕地周辺での生息情報を得た。

【確認】H13.12.3(安清町)捕獲した(TGM-0116), H15.10 南川瀬町にて捕獲した。

【聞き取り】(住宅地の“建物の中にいる小さいネズミ”の情報については、ハツカネズミとみなした)H11.10.19(佐和山町)小さい灰色のネズミを家の中で目撃している, H12.5.27(清崎町)建物の中に小さなネズミがいる, H13.7.28(服部町)しばしば目撃している, H15(松原町)家の屋根裏を小さいネズミが走り回っている

【計測値】

TGM-0116(液浸): 亜成獣(), 頭胴長: 46.0mm, 尾長: 45.0mm, 後足長: 14.0mm, 頭長: 21.0mm, 耳長: 10.0mm, 前腕長: 10.0mm, 体重: 3.9g

- コメント -

平野部の広い範囲で生息情報を得ているが、捕獲などにより直接確認した機会は少ない。情報の大半は聞き取りによるもので、形態的特徴ではなく確認状況からハツカネズミであるとみなしているの信頼性は低いと言わざるを得ない。しかし、国内の他地域における生息状況から考えても、本種が特に生息基盤の脆弱な種であるとは思われない。このため要注目種として位置付け、今後の情報の蓄積を期待する。

アナグマ *Meles meles*

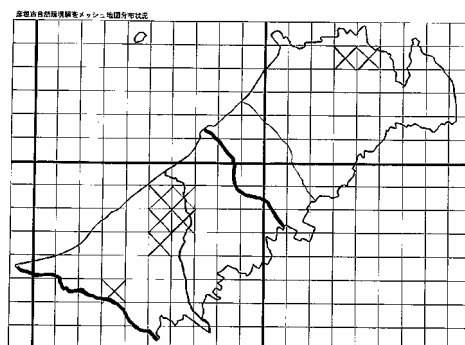
要注目種

食肉目 イタチ科

滋賀県: - 国: -

形態の特徴：体格は頑丈で四肢は太く短い。手の爪は強大。耳介は小さく目立たず、鼻先(鼻鏡)は円盤状。尾は短く、頭胴の半分に満たない。吻は比較的短い。毛は粗く、背面は暗黄褐色。腹面は暗褐色で四肢は黒い。吻の両側～後頭にかけて過眼帯がある。(頭胴長: 44.0～68.0cm, 尾長: 11.6～18.0cm, 後足長: 5.7～9.1cm, 耳長: 3.8～4.7cm, 体重: 3.0～5.0kg)

歯式：I3/3+C1/1+P3～4/3～4+M1/2=34～38



生息環境：低山帯や丘陵部の森林に生息する。地中に坑道を掘り、家族群で生活する。爬虫類・両生類・昆虫類・土壤動物などを捕食するほか、果実などの植物質も採食する。

備考：彦根市周辺では“ムジナ”あるいは“シグマ”と呼称し、タヌキとは区別している。

- 分布状況 -

今回の調査ではライトセンサスなども実施したが直接観察することはできなかった。これまでに得られた生息情報はすべて聞き取り調査によるもので、件数も少ない。これらの生息情報からは平野部の島状山地（荒神山）・川辺林（愛知川）山地とその縁辺に生息している状況が推測できる。

【聞き取り】H11.6(彦根森林組合)アナグマを山仕事に入ると見かけることがある, H12.5.27(清崎町)荒神山にいる, H12.5.27(清崎町)戦前まではいたが今はいない, H13.7.28(中山町)タヌキとは異なる“ムジナ”という動物はいる, H15.7.7(本庄町住人)3年程前まではよく見かけた, H15.12.5(稲里町)“ムジナ”を昔は良く見かけたが近年は見ない・野菜などを踏み越えて縁の下に入り込んだものだが犬を飼うと来なくなる

- コメント -

今回の調査で得られた生息情報はすべて聞き取り調査によるものである。しかし、その信頼性を考慮すると、こうした情報のみに基づいて適切な評価をするのは困難と思われ、本種を要注目種として位置付けた。なお、アナグマに関する生息情報が乏しいのは滋賀県内における全県的な傾向のようで、生息密度を反映している可能性も考えられる。今後も確実な生息情報を蓄積し、あらためて本種の位置付けを再検討する必要がある。

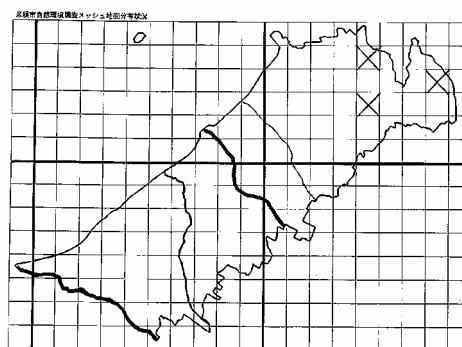
ツキノワグマ *Ursus thibetanus*

要注目種

食肉目 クマ科

滋賀県：保全すべき群集・群落・個体群（鈴鹿山脈） 国：-

形態の特徴：体格は頑丈で肩は背より低い位置になる。四肢は大きく強大。蹠行性で5指趾があり、ツメは発達しているが短めで鋭く曲がっている。吻は短く、目の位置は吻端と耳介の中間より吻端寄り。耳介は小さ目で先は丸い。毛は黒色で前胸部に白色の月の輪模様があることが多い。(頭胴長：120.0～163.0cm, 尾長：8.0cm 前後, 後足長(ツメを含む): 21.0cm 前後, 耳長：9.0cm 前後, 体重：55.0～187.0kg)
乳頭式：2+0+1=6
歯式：I3/3+C1/1+P4/4+M2～2/3=42



生息環境：低山帯から山地にかけての森林（落葉広葉樹林）に生息する。雑食性であるが植物質への依存度が高く、ササやアザミなどの草本・果実・堅果などを菜食する。また、昆虫類や土壌動物のほか、まれに大型動物を捕食することもある。冬季は樹洞や岩穴などで冬ごもりし、雌は越冬中に1～2頭の子を出産する。

- 分布状況 -

聞き取り調査で数件のクマに関連した情報を得た。そのうちの1件は林業関係者による直接観察で興味深い。ほかは、いずれも痕跡からの推定で信頼性は低いと言わざるを得ない。

【聞き取り】H12.8.27（鳥居本町）H7 ごろ武奈町で目撃した（大きな犬のような動物で黒く丸い耳をしていた）・米原町の樽ヶ畑でもハチの巣が荒されているのを見たことがある、H13.7.28（中山町）樹皮につけられた爪あとを見たことがある、H13.7.28（荘厳寺町）冬場に雪の上に残っていたクマかもしれない足跡を見たことがある

- コメント -

鈴鹿山脈では、これまでもわずかではあるが“クマ”を直接目撃したとの情報や養蜂施設が加害を受けたとの情報がある（高柳，2005）。しかし、こうした“クマ”たちが鈴鹿山脈に定着し世代交代を重ねているのか、あるいは他の地域で生まれた個体が一時的に生活しているだけなのかは今のところよく判っていない。近年、全国的にツキノワグマの個体数は著しく減少し国内の個体群はいずれもその存続が危うくなりつつある。鈴鹿山脈で確認されている“クマ”が、もしもとも鈴鹿山脈に生息していた個体群の末裔であるなら、紀伊半島と北陸方面の個体群とをつなぐ遺伝的ジャンクションに位置するものとして大変重要な存在と言える。昨今の“クマ”の出没騒ぎでは、捕殺によって解決しようとするケースが目立ち、積極的な保護に関する施策ほとんど皆無である。鈴鹿の“クマ”に対しては今後も注意を払って保護を前提とした適切な対処が望まれる。

コウベモグラ *Mogera robusta*

食虫目 モグラ科

滋賀県： - 国： -

形態の特徴：大型のモグラ。体型はやや扁平な円筒状。

吻は細長く上面に長方形の裸出部があり、鼻孔は前面に開く。目は皮下に埋まっており、耳介はない。尾は棍棒状で短く、手掌は円盤状で発達している。毛は暗褐色～褐色まで変異が大きい。

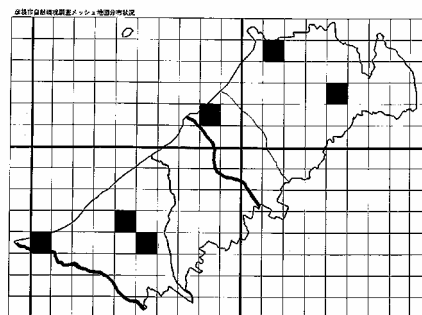
また、体サイズも変異が大きい。（頭胴

長：125.0～185.0mm，尾長：14.5～

27.0mm，手掌長（ツメを含む）：22.0～33.0mm，手掌幅：16.0～25.0mm，後足長：16.5～24.0，体重：48.5～175.0g）

乳頭式：2+1+1・1+2+1=8

歯式：I3/2+C1/1+P4/4+M3/3=42



生息環境：平野部から丘陵地にかけての草原や農耕地・森林に生息する。湿潤で土壌の厚い場所を好む。昆虫やミミズなどの土壌動物を捕食する。

- 分布状況 -

今回の調査では、モルトトラップによる捕獲調査を実施した。平地～丘陵地縁辺で生息情報を得た。

【確認】H14.6.17(下西川町)遺体を確認(TGM-0141), H15.11.21(仏生寺町)捕獲した(TGM-0212), H16.6.3(大藪町)捕獲した(計測値), H16.7.29(金沢町)捕獲した(計測値), H16.8.15(松原町)捕獲した(計測値), H16.11.6(新海町)捕獲した(計測値)

【計測値】

TGM-0141:成獣(), 頭胴長:150.0mm, 尾長:21.0mm, 後足長:22.0mm, 頭長:55.0mm, 手掌長(ツメを含む):25.0mm, 手掌幅:23.0mm, 体重:121.4g

TGM-0212(仮剥製):成獣(), 頭胴長:172.5mm, 尾長:21.5mm, 後足長:22.0mm, 手掌長(ツメを含む):21.0mm, 手掌幅:23.0mm, 精巣:8.02×3.68mm, 体重:114.0g
:成獣(), 頭胴長:164.0mm, 尾長:21.4mm, 後足長:20.4mm, 手掌長(ツメを含む):25.7mm, 手掌幅:20.0mm, 体重:116.5g

:成獣(), 頭胴長:165.0mm, 尾長:22.0mm, 後足長:21.4mm, 手掌長(ツメを含む):28.3mm, 手掌幅:22.5mm, 体重:138.5g

:成獣(), 頭胴長:175.0mm, 尾長:22.0mm, 後足長:21.8mm, 手掌長(ツメを含む・左):28.07mm, 手掌幅:21.7mm

:成獣(), 頭胴長:132.0mm, 尾長:19.0mm, 後足長:22.0mm, 手掌長(ツメを含む):25.8mm, 手掌幅:21.0mm, 体重:105.0g

【聞き取り】H13.7.28(中山町)大きくて茶色がかった毛のモグラがとても多く生息している。

- コメント -

今回の調査では市内の平野部を中心に広く分布していることが確認され、普通種として位置付けた。近縁種で生態が似通っているアズマモグラとの関係が注目される。

アブラコウモリ *Pipistrellus abramus*

翼手目 ヒナコウモリ科

滋賀県： - 国： -

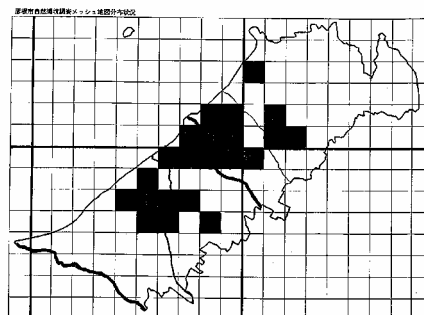
形態の特徴：比較的小さいコウモリ。皮膜は外側趾の基部に着く。耳介や耳珠は短く幅広い。耳珠は耳介のおよそ半分の高さ。背面は灰褐色、腹面は淡灰褐色、皮膜は明るい褐色。鼻葉はない。(頭胴長：41.0～60.0mm, 前腕長：30.0～37.0mm, 尾長：29.0～45.0mm, 後足長(ツメを含む)：7.2～8.2mm, 耳長：11.0～12.2mm, 体重：5.0～10.0g)

乳頭式：1+0+0=2

歯式：I3/2+C1/1+P2/2+M3/3=34

生息環境：昼間のねぐらや越冬場所として家屋を利用し、数頭以上の集団を作る。夜間、主に河川敷などで小型飛翔昆虫を採餌する。山間部や家屋のない森林内には生息せず、都市近郊で多く見られる。

備考：イエコウモリは同じ種の別称



- 分布状況 -

今回の調査では、直接観察や聞き取りにより平野部の市街地周辺(特に団地)で多くの生息情報を得た。なお、聞き取り調査やアンケート調査で得られた“コウモリ情報”については、全てアブラコウモリとみなした。

【確認】H11.8.8(中藪町)目撃した, H12.8.8(中藪町)目撃した, H12.8.8(大藪町)多数確認した, H12.9(八坂町)目撃した, H12.2(西今町)目撃した, H14.7.20(原町)遺体を採集した(TGM-0145), H14.7.25(正法寺町)遺体を採集した(TGM-0146), H14.9(平田町)目撃した, H14(大藪町)目撃した, H15.8(西今町)目撃した, H15.8(八坂町)目撃した, H15.8(平田町)目撃した, H15.8(野田沼)目撃した, H15.8(曾根沼)目撃した, H15.9(開出今町)目撃した, H15.9(小泉町)目撃した, H15.9(八坂町)目撃した, H15.9(南川瀬町)目撃した, H15.10(稲里町)目撃した, H15.10(甘呂町)目撃した, H15.10(清崎町)目撃した, H15.10(外町)目撃した, H15(石寺町)目撃した, H15(開出今町)目撃した, H15(西今町)目撃した, H15(日夏町)目撃した, H15(松原町)目撃した

【ドク-制度】H9.7.16(日夏町)衰弱個体, H11.2.7(南川瀬町)低体温症

【計測値】

TGM-0145(仮剥製)：亜成獣()，頭胴長：33.0mm，尾長：22.5mm，下腿長：9.7mm，頭長：13.1mm，耳長：7.9mm，耳珠長：2.7mm，前腕長：23.0mm，体重：2.5g

TGM-0146(仮剥製)：成獣()，頭胴長：41.0mm，尾長：26.9mm，下腿長：12.0mm，頭長：15.0mm，耳長：11.3mm，前腕長：31.6mm，体重：4.3g

- コメント -

古い家屋などから 100 頭以上が出巢する状況や、採餌場となる河川敷に向けて数千頭が飛翔していく状況を確認している。市街地を中心に相当数が広範囲に生息していると判断され、普通種として位置付けた。

アカネズミ *Apodemus speciosus*

齧歯目 ネズミ科

滋賀県： - 国： -

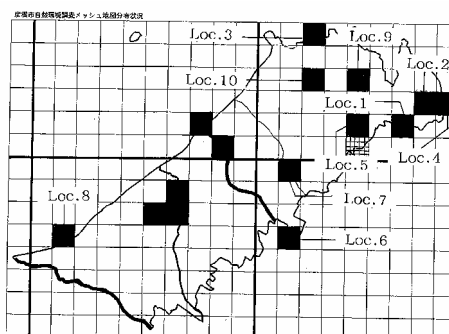
形態の特徴：ヒメネズミと外見がよく似ているが、より大型。尾は長いが尾率は 100% 以下。後足の蹠球数は 5~6 で各蹠球間の皮膚はなめらか。背面は褐色から橙褐色で腹面は白色。(頭胴長：83.0~140.0mm, 尾長：69.0~129.0mm, 後足長：22.0~28.5mm, 耳長：13.5~18.5mm, 体重：20.0~72.5g)

乳頭式：2+0+2=8

歯式：I1/1+C0/0+P0/0+M3/3=16

生息環境：低地から高山帯までの森林・草原・農耕地周辺などに生息する。植物の根茎部、実生、種実、昆虫類などを採食する。

備考：日本固有種



- 分布状況 -

今回の調査では、シャーマントラップによる捕獲調査を実施した。平野部から山地に至るまで、住宅地と繁華街を除いた彦根市内のほぼ全域から生息情報を得た。

【確認】H10.4~11 (八坂町・犬上川河川敷) 捕獲した, H11.7 (荒神山) 多数捕獲した, H11 (荒神山) 捕獲した, H12.7.26~30 (笹尾町) 3 頭捕獲した, H12.8.10~13 (男鬼町) 5 頭捕獲した, H12.8.29~9.3 (松原町) 8 頭捕獲した, H12.8.29~9.3 (武奈町) 5 頭捕獲した, H12.8.29~9.3 (男鬼町) 16 頭捕獲した, H12.10 (八坂町) 自動撮影により確認, H13.4.15 (東沼波町) 3 頭捕獲した, H13.11.7~8 (新海町) 4 頭捕獲した, H13.11.13~15 (善谷町) 5 頭捕獲した, H13.11.13~15 (佐和山町) 3 頭捕獲した

【フィールドサイン】H14.3.31 (武奈町) オニグルミの核にアカネズミの食痕を確認

【文献】18:(笹尾町) 捕獲したとの記述がある, 16:(笹尾町) 捕獲したとの記述がある, 14:(八坂町) 捕獲したとの記述がある

【彦根市近隣における情報】H12.7.5~9 (多賀町猿木・犬上川右岸) 11 頭捕獲

【計測地】以下に各計測項目の平均値を記載 (個体別の詳細な計測データは表 1 に別記)

頭胴長：113.3mm (n=31), 尾長：103.2mm (n=25), 後足長：23.3mm (n=30), 頭長：34.8mm (n=31), 耳長：13.5mm (n=30), 体重：45.7g (n=33)

頭胴長：110.7mm (n=21), 尾長：101.6mm (n=18), 後足長：22.9mm (n=21), 頭長：33.8mm (n=20), 耳長：22.3mm (n=21), 体重：40.5g (n=20)

- コメント -

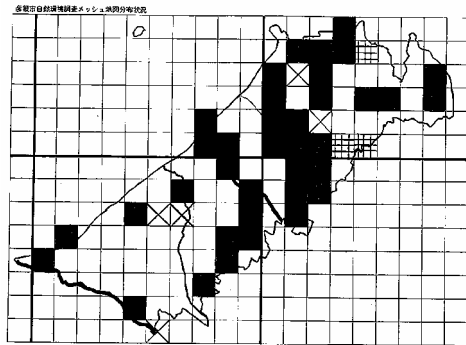
今回の調査結果から、彦根市内のほぼ全域にかなりの生息密度で分布している事が確認された。アブラコウモリとならんで、彦根市内に生息している哺乳類のなかでもっとも優勢な種であると考えられ、普通種として位置づけた。

タヌキ *Nyctereutes procyonoides*

食肉目 イヌ科

滋賀県：郷土種 国：-

形態の特徴：体はずんぐりしており、尾も太短い。吻や四肢は短く、耳介は短く先端は丸い。毛は長く、頬・喉・胸・四肢は黒褐色でほかの部位は先端が黒い毛の混じる淡い褐色(顔はパンダ模様)。後肢の指は4本しか接地しないので足跡は4本指の動物の物のように見え、行跡はジグザグに残る。フンの平均的大きさは径：2cm・長さ：7cm程度で、ためフンを行う。(頭胴長：51.5~68.0cm, 尾長：13.0~19.5cm, 後足長：10.2~12.3cm, 耳長：3.7~6.0cm, 体重：3.0~5.0kg)
歯式：I3/3+C1/1+P3~4/4+M2~3/2~3=40~44



生息環境：平野部から山地まで広く生息するが、高山に生息するのはまれ。市街地から農耕地・森林・河川敷など多様な環境に適応し、家族群で行動することが多い。雑食性で果実など植物質のものを採食するほか、昆虫類・爬虫類・両生類・小型哺乳類・鳥類などの小動物を捕食したり大型動物の遺体をスカベンジングしたりもする。

- 分布状況 -

今回の調査では、平野部から山地にいたる幅広い環境(森林・農耕地・住宅地の近隣など)での生息情報を得た。

【確認】H10(八坂町)目撃した, H11.7(西沼波町)救護した, H11.7(八坂町)目撃した, H11.10.18~22(城山)自動撮影により確認した, H11.11.29~12.3(雨坪山)自動撮影により確認した(複数枚撮影に成功し1カットで2匹写っているものもあった), H11(八坂町)親1頭と子2頭を救護した, H12.4(開出今町)自動撮影により確認した, H12.11.8(外町)遺体(性不明)を採集した(TGM-0112), H12(八坂町)目撃した, H13.4.14(八坂町)ミイラ化した遺体(性不明・骨)を採集した(TGM-0129), H13.4(上稲葉町)救護(疥癬

症の個体)した, H14.3.5(大堀町・マンガン鉱山跡)斃死体を確認した, H14.5(石寺町)目撃した, H14.6.5(武奈町)目撃した, H14.11(開出今町)八坂町にて目撃した, H15.7(開出今町)八坂町にて目撃した, H16.3.12(男鬼町)死体を確認した, H16.3.16(男鬼町)目撃した, H16.3.16(仏生寺町)2匹目撃した,

【ドク-制度】H9.9.22(日夏町)大腿骨骨折・脱臼, H10.6.16(東沼波町)咬傷, H10.11.11(石寺町)頭部打撲, H11.3.1(金亀町)尾脱落, H11.7.2(西沼波町)股関節脱臼, H11.12.17(広野町)鼻から出血

【ロード】H8.10.21(西沼波町)行政資料より, H9.2.20(川瀬馬場町)行政資料より, H9.2.24(安食中町)行政資料より, H9.5.22(鳥居本町)行政資料より, H9.6.28(森堂町)行政資料より, H9.8.29(西沼波町)行政資料より, H9.10.28(鳥居本町)行政資料より, H9.11.10(鳥居本町)行政資料より, H9.11.11(下矢倉町)行政資料より, H9.11.15(鳥居本町)行政資料より, H9.12.17(東沼波町)行政資料より, H10.5.23(下矢倉町)行政資料より, H10.8.16(正法寺町)行政資料より, H10.9.12(松原町)行政資料より(2匹), H10.9.29(甲田町)行政資料より, H10.10.10(佐和山町)行政資料より, H10.10.22(鳥居本町)行政資料より, H10.10.26(鳥居本町)行政資料より, H10.10.30(松原町)行政資料より, H10.10.30(芹川町)行政資料より, H10.11.2(西沼波町)行政資料より, H10.11.14(石寺町)遺体を採集した(TGM-0043), H10.11.21(下矢倉町)行政資料より, H10.11.30(河原二丁目)行政資料より, H10.12.3(松原町)行政資料より, H10.12.7(松原町)行政資料より, H10.12.10(松原町)行政資料より, H10.12.21(芹川町)行政資料より, H10.12.30(高宮町)行政資料より, H11.1.22(大堀町)遺体を確認した(計測値), H11.2.16(鳥居本町)行政資料より, H11.2.23(外町)行政資料より, H11.3.23(正法寺町)行政資料より, H11.4.16(南川瀬町)行政資料より, H11.6.23(川瀬馬場町)行政資料より, H11.10.14(開出今町)行政資料より, H11.10.26(松原町)行政資料より, H11.10.29(大堀町)遺体を確認した(計測値), H11.11.1(甲田町)行政資料より, H11.11.6(甲田町)行政資料より, H11.11.11(大堀町)遺体を確認した(計測値), H11.12.30(里根町)行政資料より, H11(新海浜)遺体を確認した, H12.1.2(里根町)行政資料より, H12.1.18(安食中町)行政資料より, H12.3.27(松原町)遺体を確認した, H12.5.22(甲田町)行政資料より, H12.10.16(八坂町)行政資料より, H12.10.23(野口町)行政資料より, H12.11.8(外町)遺体(性不明)を採集した(TGM-0112), H13.10.15(佐和山町)行政資料より, H13.11.3(鳥居本町)行政資料より, H14.3.29(南川瀬町)行政資料より, H14.7(八坂町)行政資料より, H14.9.20(八坂町)遺体を確認, H16.7.24(金亀町)遺体を確認した(計測値), H16.8.31(遺体を確認した(新海町)), H16.6(八坂町)遺体を確認した, H16.11.4(八坂町)遺体を確認した

【フィールドサイン】H12.7.5(開出今町・犬上川左岸)噛みしだかれたマヨネーズ容器を確認した, H12.7.5(八坂町・犬上川左岸)足跡を確認した, H12.7.5(宇尾町・犬上川左岸)ためフンを確認した, H14(八坂町)ためフンを確認した

【聞き取り】H11.10.19(佐和山)目撃はしていないが1年前に死骸を1度見た, H11.11.26(男鬼町)以前はたくさんいたようだが最近では目撃しなくなった, H11(雨壺山)生息している, H12.5.27(清崎町)いる, H12.5.27(稲里町)冬になると出てくる, H12.5.27(清崎町)以前は沢山いたが、最近は見かけなくなった, H12.5.27(正法寺町)10年ほど前に見かけた, H12.8.7(里根町)いる, H12.8.7(原町)昔は沢山いたのに近頃は見かけなくな

った，H12.8.7（宮田町）佐和山にいる，H12.8.7（甲田町）H8 ごろ、国道 8 号線で斃死体を見た・近江鉄道の橋の下で今年 4 月頃死体を見た，H12.8.7（中山町）いる，H12.8.7（古沢町）2 年前から毎日決まった時間（朝 10 時 夕方 4 時）に来ていた（写真にも撮影している・タヌキがやってくる場所はけもの道ができていた）・10 年前に親子で来るタヌキたちがいた，H13.7.28（中山町）いる，H13.7.28（莊厳寺町）エサを食べに来る，H13.7.28（服部町）最近見たという人もいるが私自身は見えていない・何十年も前に家の縁の下に住み着いていたことがある，H13.7.28（服部町）よく見かける，H15.4.22（稲里町）荒神山でしばしば見かける

【文献】16：（笹尾町）フィールドサインを確認したとの記述がある，3：（中山町）聞き取り調査で情報を得たとの記述がある，14：（八坂町）フィールドサインを確認したとの記述がある

【彦根市近隣における情報】H8.4.10（豊郷町安食西）行政資料中のロードキル記録，H8.10.15（五個荘町宮荘）行政資料中のロードキル記録，H9.2.26（五個荘町清水鼻）行政資料中のロードキル記録，H9.3.3（五個荘町石塚）行政資料中のロードキル記録，H9.5.2（五個荘町竜田）行政資料中のロードキル記録，H9.10.13（豊郷町安食西）行政資料中のロードキル記録，H9.11.10（愛知川町長野）行政資料中のロードキル記録，H10.2.2（米原町梅ヶ原）行政資料中のロードキル記録，H10.10.22（愛知川町長野）行政資料中のロードキル記録，H10.11.13（豊郷町高野瀬）行政資料中のロードキル記録，H10.12.16（五個荘町清水鼻）行政資料中のロードキル記録，H11.2.24（豊郷町沢）行政資料中のロードキル記録，H11.3.10（愛知川町中宿）行政資料中のロードキル記録，H11.3.29（愛知川町中宿）行政資料中のロードキル記録，H11.4.7（愛知川町中宿）行政資料中のロードキル記録，H11.4.9（五個荘町竜田）行政資料中のロードキル記録，H11.8.23（湖東町横溝）行政資料中のロードキル記録，H11.9.1（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H11.9.14（愛知川町長野）行政資料中のロードキル記録，H11.9.16（愛知川町長野）行政資料中のロードキル記録，H11.9.28（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H11.10.8（愛知川町中宿）行政資料中のロードキル記録，H11.10.19（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H11.10.22（五個荘町宮荘）行政資料中のロードキル記録，H11.11.13（愛知川町長野）行政資料中のロードキル記録，H11.11.25（多賀町尼子）行政資料中のロードキル記録，H11.11.26（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H11.11.26（五個荘町北町屋）行政資料中のロードキル記録，H11.12.10（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H12.2.14（愛知川町長野）行政資料中のロードキル記録，H12.2.18（多賀町多賀）遺体を確認した，H12.8.18（豊郷町四十九院）遺体を確認した，H12.9.22（多賀町多賀）ロードキル遺体を採集（TGM-0094），H12.10.4（多賀町多賀）ロードキル遺体を採集（TGM-0108），H12.10.21（多賀町中川原）ロードキル遺体を採集（TGM-0103），H12.10.23（豊郷町安食西）行政資料中のロードキル記録，H12.11.8（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H12.11.13（豊郷町安食西）行政資料中のロードキル記録，H12.12.1（多賀町中川原）ロードキル遺体を確認した，H13.2.9（愛知川町愛知川）遺体を確認した，H13.3.8（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H13.6.12（多賀町木曾）遺体を確認した，H13.6.14（多賀町敏満寺）遺体を確認した（計測値），H13.2.9（愛知川町愛知川）遺体を確認した，H14.9.23（多賀町佐目）遺体を採集した（TGM-0149），H14.9.25（甲良町在土）遺体を確認した（計

測値) , H14.10.2 (多賀町木曾) 遺体を確認した (計測値)

【計測値】

TGM-0043 : 成獣 () , 頭胴長 : 48.0cm , 尾長 : 18.0cm , 後足長 : 11.0cm , 頭長 : 14.0cm , 耳長 : 5.0cm , 肩高 : 27.0cm , 体重 : 3.20kg

TGM-0149 : 亜成獣 () , 頭胴長 : 34.5cm , 尾長 : 18.0cm , 後足長 : 10.3cm , 頭長 : 12.0cm , 耳長 : 5.4cm , 前腕長 : 9.0cm , 肩高 : 23.5cm , 体重 : 2.14kg

TGM-0094 : 亜成獣 () , 頭胴長 : 46.5cm , 尾長 : 15.5cm , 後足長 : 10.3cm , 頭長 : 11.5cm , 耳長 : 5.0cm , 体重 : 3.00kg

TGM-0103 : 成獣 () , 頭胴長 : 49.0cm , 尾長 : 19.0cm , 後足長 : 10.5cm , 頭長 : 13.5cm , 耳長 : 4.5cm , 体重 : 3.06kg

TGM-0108 : 成獣 () , 頭胴長 : 50.0cm , 尾長 : 16.0cm , 後足長 : 10.1cm , 頭長 : 12.0cm , 耳長 : 4.8cm

: 成獣 () , 頭胴長 : 53.0cm , 尾長 : 11.0cm , 後足長 : 10.5cm , 頭長 : 12.5cm , 耳長 : 3.3cm + , 体重 : 4.25kg

: 亜成獣 () , 尾長 : 15.0cm , 後足長 : 10.2cm , 頭長 : 13.5cm , 耳長 : 4.7cm , 前腕長 : 10.0cm

: 亜成獣 (性不明) , 頭胴長 : 40.0cm , 後足長 : 10.0cm , 頭長 : 11.0cm , 耳長 : 4.5cm , 前腕長 : 10.0cm

: 幼獣 () , 頭胴長 : 47.5cm , 尾長 : 17.5cm , 後足長 (左) : 10.3cm , 頭長 : 11.1cm , 耳長 (左) : 5.4cm , 肩高 : 24.7cm , 前腕長 (左) : 8.8cm , 胸囲 : 25.8cm , 体重 : 2.46kg

: 成獣 () , 頭胴長 : 57.0cm , 後足長 : 10.5cm , 頭長 : 13.5cm , 耳長 : 4.0cm

: 成獣 () , 頭胴長 : 50.0cm , 尾長 : 17.0cm , 後足長 : 10.4cm , 頭長 : 13.8cm , 耳長 : 5.3cm 前腕長 : 10.9cm , 体重 : 3.74kg

: 亜成獣 () , 頭胴長 : 45.7cm , 尾長 : 18.5cm , 後足長 : 10.5cm , 頭長 : 11.3cm , 耳長 : 5.3cm , 前腕長 : 9.8cm , 肩高 : 29.3cm , 体重 : 2.85kg

- コメント -

彦根市内の広いエリアから生息情報が得られ、現在のところ生息状況も特に問題があるとは思われない。しかし、若齢個体が輪禍に巻き込まれるケースが多発しているうえ、疥癬症を発病した個体も頻繁に確認している。ロードキルの発生は地域個体群に継続的なダメージを与え続けるし、疥癬症の流行は個体数を極端に減少させる可能性をはらんでいる。現在の状況を踏まえてここでは普通種として位置付けるが、今後も状況の変化に注目しておく必要があると考える。

キツネ *Vulpes vulpes*

食肉目 イヌ科

滋賀県：郷土種 国：-

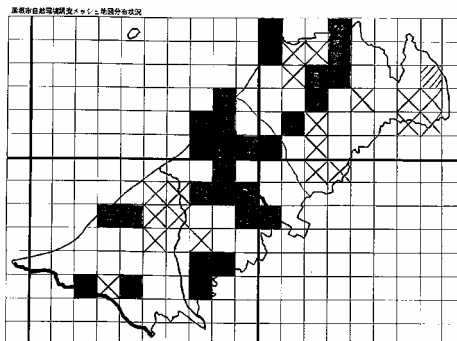
形態の特徴：体は細く四肢と尾は長い。耳介は先端が尖り、吻は細長い。背面から尾の上面は赤味がかった黄土色で、顎の下から腹部、尾端は白色。前肢の足先前面と耳介背面には黒色部がある。歩行時は、前・後の足跡が重なり、左右の幅は狭いのでほぼ一直線の行跡になる。フンの平均的の大きさは径：2cm・長さ：

7cm 程度。(頭胴長：57.8～78.0cm，尾長：30.0～40.0cm，後足長：12.5～17.8cm，耳長：6.8～11.3cm，体重：4.0～7.0kg)

乳頭式：0+2+1=6

歯式：I3/3+C1/1+P4/4+M2/3=42

生息環境：平野部から高山までの森林・草原に生息する。開けた環境を好み、まれに市街地でも生息していることもある。雑食性で果実や穀物も採食するが基本的に動物質への依存傾向が強く、小型哺乳類・鳥類・昆虫類などの小動物を捕食したり、大型動物の遺体をスカベンジングしたりする。



- 分布状況 -

今回の調査では、平野部から山地にいたる幅広い環境（森林・農耕地・住宅地の近隣など）での生息情報を得た。

【確認】H8（八坂町）死体を確認した，H10（開出今町）目撃した，H10（八坂町）目撃した，H11.3.14（八坂町・犬上川河口部右岸）目撃した，H11.7.11（八坂町・犬上川河口部左岸）目撃した，H12.6.23（八坂町・犬上川右岸）親1頭、子2頭を目撃した，H12.6（八坂町）目撃した，H12.8.6（田附町）目撃した，H12（開出今町）目撃した，H13.5（薩摩町）目撃した，H13（八坂町）目撃した，H14.5（石寺町）目撃した，H14.5（八坂町）目撃した，H14.10（八坂町）目撃した，H14.11（八坂町）目撃した，H14.12（南川瀬町）目撃した，H15.10（彦富町）目撃した，H15（開出今町）目撃した，H15（八坂町）目撃した，H16.6.12（松原町）目撃した

【ドク-制度】H9.9.6（野瀬町）脛骨骨折・頭部打撲，H10.11.2（岡町）打撲，H12.6.14（宇尾町）頸部打撲

【Q-ド-ル】H8.8.12（犬方町）行政資料より，H8.12.24（鳥居本町）行政資料より，H9.11.27（南川瀬町）行政資料より，H9.11.28（甲田町）行政資料より，H9.12.20（鳥居本町）行政資料より，H10.2.13（外町）行政資料より，H10.4.6（日夏町）行政資料より，H10.11.2（蓮台寺町）行政資料より，H10.11.5（平田町）行政資料より，H10.11.21（高宮町）行政資料より，H10.11.23（佐和山町）行政資料より，H11.2.2（大藪町）行政資料より，H11.12.6（新海町）遺体を確認した，H11.12.13（薩摩町）行政資料より，H12.1.2（安食中町）行政

資料より ,H12.8.10(松原町)行政資料より ,H14.2.15(佐和山町)行政資料より ,H14.5.27
(佐和山町)行政資料より ,H14.10.3(宇尾町)遺体を確認した(計測地)

【フィールドサイン】H12.7.5(開出今町・犬上川左岸)フン(径 2.5~3cm、長さ 10cm・内容物は昆虫の体節(オサムシ・シテムシ・ゴミムシ・キマワリ等)が 7~8 割、モグラの毛、骨片、ネコの骨片などもわずかに含む)を 10 個程度確認した ,H14.3.31(武奈町)フン(ノウサギの歯・骨・毛を含む)を確認した

【聞き取り】H11.10.19(佐和山町)比較的目撃する機会が多い ,H11.11.26(男鬼町)以前はたくさんいたようだが最近では目撃しなくなった ,H11(雨壺山)生息している ,H12.5.27(清崎町)最近増えた印象がある・キツネに化かされた話も聞いたことがある・時々見るが以前より少なくなった印象を受ける(鳴き声も聞かなくなった) ,H12.5.27(稲里町)いる・20 年くらい前にキツネに化かされた話を聞いた・30 年以上前に知り合いが捕まえて襟巻きにした ,H12.5.27(日夏町)巣穴があるのを知っている ,H12.5.27(正法寺町)3~4 年前見かけた ,H12.8.7(里根町)いる・キツネに化かされた話(: 愛知川町(豊満神社)の前を自転車の後に油揚げを積んで通ると自転車のライトが 3 回繰り返して消えた。気が付くと油揚げは無くなっていて。今から 35 年ほど前の話。 , : 夜、道をきれいな女性が通りすぎていった。振り返ってよく見てみると女性には尻尾があった。), H12.8.7(原町)ゴルフ場のあたりをうろついているのを見かけた・H7 ごろ土取り場の裏にいたことがある・昔は沢山いたのに近頃はあまり見かけなくなった・50 年くらい前キツネに化かされた人の話を聞いたことがある・消防署の脇に稲荷大明神がある・宮田町の物生山で目撃した ,H12.8.7(宮田町)数年前に目撃した ,H12.8.7(宮田町)いる・数は少ないが大きくて体格の立派なものもいる・昔は子どものしつけのためにキツネに化かされる話をした ,H12.8.7(甲田町)生ゴミをあさりに来る(今年の冬も来ていた)・夜、ご馳走を持って歩くときちょっとだしに(化かしに) 来るとい話を聞いたことがある ,H12.8.7(中山町)いる・国道 8 号線と摺り針峠の間の道で以前はキツネのロードキルが頻繁に起きていた ,H12.8.7(古沢町)2 年前につっかけをキツネに持って行かれたことがある(つっかけは清涼寺の縁の下でキツネが拾ってきたいろんな物に混じって見つかった)・キツネについての因縁話もある(愛宕の白狐と呼ばれるお稲荷さんの話で、駅の構内近くでよくキツネが列車に轢かれる事故が起きていたが、そういったことがあると車輪の油をキツネがいじりにやってきて車両事故がおきるといわれていた。キツネを静めるためにお稲荷の社は旧国鉄職員が作った。), H13.7.28(中山町)くくりワナで捕獲されたのを見たことがある・農協の理事をしておられた方が甲田町でキツネにつままれて一晩帰ってこなかったことがある ,H13.7.28(荘厳寺町)いる ,H13.7.28(服部町)昭和アルミの近くで見かけたことがある・キツネに化かされたという話は、おじいさんの頃のこととして聞いたことがある ,H13.7.28(服部町)まれに見かける ,H13.7.28(新海町)終戦直後の頃はキツネを見かけることもあったが今は見かけない ,H15.4.22(稲里町)荒神山でしばしば見かける・荒神山林内より 5~6 月頃キツネの子別れの声? が聞こえる , H15.5.28(三津町)見かける ,H15.7.7(本庄町)愛知川右岸堤の外の自宅の庭に埋めた川魚の料理残骸を度々掘り返される ,H15.12.5(稲里町)冬に多く田畑で見かける

【文献】14:(八坂町)フィールドサインを確認したとの記述がある

【彦根市近隣における情報】H8.5.14(五個荘町竜田)行政資料中のロードキル記録 ,H8.10.21
(豊郷町高野瀬)行政資料中のロードキル記録 ,H9.5.21(五個荘町北町屋)行政資料中の

ロードキル記録，H9.9.27（米原町梅ヶ原）行政資料中のロードキル記録，H9.10.13（豊郷町高野瀬）行政資料中のロードキル記録，H10.1.31（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H11.2.9（多賀町木曾）遺体を確認した，H11.10.5（多賀町敏満寺）遺体を確認した，H12.1.7（五個荘町宮荘）行政資料中のロードキル記録，H12.1.19（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録，H12.4.27（甲良町法養寺）遺体を確認した，H12.6.20（多賀町多賀）遺体を確認した，H12.8.22（豊郷町雨降野）行政資料中のロードキル記録，H12.9.14（甲良町下之郷）遺体を確認した，H12.11.14（愛知川町愛知川）行政資料中のロードキル記録

【計測値】

：成獣（ ），頭胴長：70.8cm，尾長：39.4cm，後足長：15.6cm，頭長：16.8cm，耳長：7.2cm，肩高：37.7cm，前腕長：15.8cm，体重：5.24kg

- コメント -

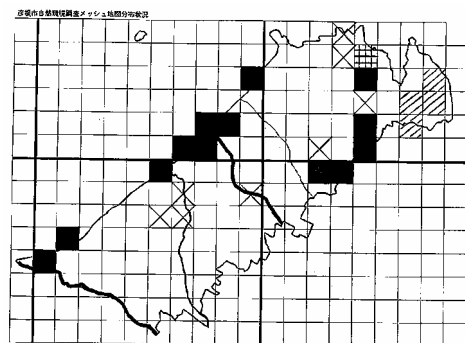
彦根市内の広いエリアから生息情報が得られ、現在のところ生息状況も特に問題があるとは思われない。しかし、情報にはロードキルに関連する行政資料が多く含まれ、また「最近見かけなくなった」との聞き取り情報も少なくない。現在の状況を踏まえてここでは普通種として位置付けるが、今後も状況の変化に注目しておく必要があると考える。また、聞き取り情報には“キツネに化かされた話し”がいくつも含まれているが、彦根でも古来よりキツネと人との接点が浅からぬ物であったことがうかがわれ興味深い。

イノシシ *Sus scrofa*

偶蹄目 イノシシ科

滋賀県： - 国： -

形態の特徴：体幹は樽状で四肢は短い。吻は長く鼻の先端（鼻鏡）は円盤状。頸は太く短い。尾と耳は比較的長い。体サイズは地域変異が大きい。全身褐色または暗黒色の剛毛で覆われ、毛は粗い。蹄の数は前後脚ともに4本だが、側蹄（副蹄）は小さい。雌の乳頭数は12個。雌・雄で体サイズに違いがある（ > ）（ 頭胴長：110～160cm，肩高：60～80cm，体重：50～150kg）（ 歯式：I3/3+C1/1+P4/4+M3/3=44



体重は の60～80%程度)

生息環境：平野部～低山帯にかけての森林（常緑・落葉広葉樹林もしくは2次林）に生息し、その周辺の里山・農耕地などにもしばしば出没する。四肢が短いので、多雪地帯には生息していない。雑食性で、植物の葉・根茎・果実・堅果を菜食するほか、爬虫類・両生類・昆虫類・土壌動物などを捕食したりもする。

- 分布状況 -

今回の調査では、地元住民への聞き取りや現地踏査（ライトセンサス・フィールドサインの確認）などを実施するとともに斃死体の確認情報を収集し、丘陵地～山地にかけてとその縁辺、平野部の島状山塊（荒神山）と琵琶湖湖岸での生息情報を得た。

【確認】H10.11（笹尾町）目撃した，H14.2.1（大藪町）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した（計測値 ），H14.3.2（長曾根町）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した（計測値 ），H14.6.5（野田山町）目撃した，H14.12.3（八坂町）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した（TGM-0185），H15.10.2（笹尾町）目撃した，H16.1.25（野田山町）猟殺個体（ ）を確認した（TGM-0208：骨格標本），H16.3.31（新海町）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した（TGM-0216），H16.10（新海浜）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した，H16.10（八坂町）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した，H16.11.20（長曾根町）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した，H16.12.11（犬上川河口）遺体を確認した，H16.12.19（長曾根町）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した，H16（三津屋町）湖岸に打ち上げられていた遺体を確認した

【ロードキル】H12.11.1（中山町）遺体を採集した（TGM-0106）

【フィールドサイン】H11.8.8（男鬼町）掘り返し跡を確認した，H11.11.26（男鬼町・集落内）掘り返し跡・足跡（足印長約8cm）多数を確認した，H12.5.6（男鬼町）掘り返し跡を確認した，H14.3.31（男鬼町）掘り返し跡を確認した，H14.3.31（武奈町）掘り返し跡を確認した

【聞き取り】H11.11.26（男鬼町）農作物への被害がしばしばある・昨年は集落の中でイノシシがつかまった，H12.5.27（清崎町）日夏町で飼っていたといわれるイノシシが逃げてきたことがある，H12.5.27（正法寺町）よく出る（畑の作物を荒らす），H12.8.7（原町）タケノコやサツキを掘り返される被害が出ているが直接見る機会はない・4～5年前猟でイノシシを捕獲した人を見た・60年くらい前までは落とし穴でイノシシを捕まえていた・甲田町で見た，H12.8.7（甲田町）毎年3月頃からタケノコをあらしに来る（ここ15年の間に農作物を頻繁にあらしに来るようになった），H12.8.7（中山町）いる，H13.7.28（中山町）いる，H13.7.28（莊厳寺町）タケノコを食害しに山のふもとへもやってくる，H15.4.18（安清町）昨年10月ごろ日夏町の荒神山入り口でイノシシの幼獣一頭を見た，H15.4.18（八坂町）宇尾町と竹ヶ鼻町でイノシシを見た，H15.4.22（稲里町）八坂町でイノシシが出ている・3月には荒神山の竹藪が荒らされたと聞いた（穴を掘られ竹の皮が散乱），H15.12.5（稲里町）今年8月初め頃に痕跡を確認している（荒神山の東の水田で足跡・水田内のヌタを打った跡）・荒神山の林道でも足跡を見ている

【文献】3：（中山町）フィールドサインを確認したとの記述がある

【彦根市近隣における情報】H14.6.5（多賀町水谷）目撃した

【計測値】

TGM-0106（本剥製）：成獣（ ），頭胴長：121.0cm，尾長：16.0cm，後足長（蹄先端まで）：27.0cm，頭長：42.0cm，耳長：11.0cm，肩高：71.0cm，体重：57.0kg+

TGM-0185（骨格標本）：成獣（ ），頭胴長：108.0cm，尾長：14.0cm，後足長（蹄先端まで）：25.7cm，頭長：36.0cm，耳長：9.0cm，肩高：60.6cm，前腕長：20.5cm，胸囲：93.6cm，体重：52.7kg

TGM-0216（本剥製）：亜成獣（ ），頭胴長：105.0cm，尾長：13.0cm，後足長（蹄先端

まで) : 24.0cm , 頭長 : 22.2cm , 耳長 : 9.6cm , 肩高 : 54.2cm , 前腕長 : 19.8cm , 胸囲 : 82.2cm , 体重 : 37.5kg

: 亜成獣 (性不明) , 頭胴長 : 約 80cm

: 亜成獣 (性不明) , 全長 : 70.0cm , 後足長 : 10.0cm , 頭長 : 25.0cm

- コメント -

彦根市内の平野部～山地にかけての広いエリアから生息情報が得られ、現在のところ生息密度も特に問題が生じるレベルとは思われなので普通種として位置付けた。なお、孤立した島状山地である荒神山での生息情報や琵琶湖湖岸での遺体確認例も少なくないが、これらの地域に定常的にイノシシが生息しているとは考えにくく、飼育個体の脱柵や犬上川川辺林あるいは琵琶湖岸に沿って移動してきた個体の一時的な出現ではないかと想像される。

ニホンジカ *Cervus nippon*

偶蹄目 シカ科

滋賀県 : - 国 : -

形態の特徴: 中型のシカ。 は短い角柄上に角を持ち、

毎年生え変わる (1 歳は 1 尖 , 2 ~ 3 歳は

2 ~ 3 尖 , 4 歳以上は 4 尖 : 成体の角長 :

30.0 ~ 80.0cm) 。 上顎犬歯は小型化して

いる。夏毛は茶色で小型の白斑があり、

冬毛は白斑を欠き灰褐色。臀部には、黒

い毛でふちどられた大きな白い尻斑があ

る。蹄の数は前後脚ともに 4 本だが、側

蹄 (副蹄) は小さく位置が高いので接地することはまれで、通常は足跡には残らない。主蹄は先端がとがっている。雌・雄で体サイズの違いが大きい (>)

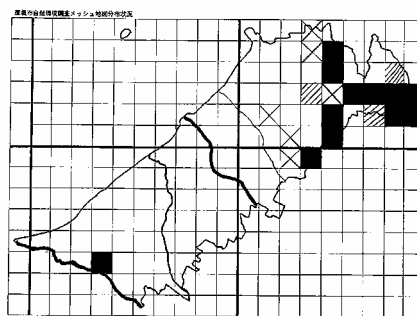
(頭胴長 : 90.0 ~ 190.0cm , 肩高 : 70.0 ~ 130.0cm , 体重 : 50.0 ~ 130.0kg

頭胴長 : 90.0 ~ 150.0cm , 肩高 : 60.0 ~ 110.0cm , 体重 : 25.0 ~ 80.0kg)

乳頭式 : 0+0+2=4

歯式 : I0/3+C1/1+P3/3+M3/3=34

生息環境 : 平野部～山地にかけての森林 (常緑・落葉広葉樹林もしくは針広交林) とその周辺に生息し、イネ科の草本や木の葉、堅果、ササ類などを採食する。多雪地帯に生息している個体群では、冬季に雪の少ない地域に移動することが知られている。また、交尾期には優勢なオスがナワバリリをつくりハレムを形成する。



- 分布状況 -

今回の調査では、地元住民への聞き取りや現地踏査 (ライトセンサス・フィールドサインの確認) などにより、丘陵地～山地にかけてとその縁辺で多くの生息情報を得た。なお、1 件だけ、他の分布情報からかけはなれた位置 (愛知川河川敷) での確認例 (1 点の下顎骨採集) があるが、これはこの場所でのシカの生息を示す物ではなく河川上流から流れてくるなどした物と思われる。

【確認】H11.6(男鬼町)幼獣を目撃した, H11.9.3(愛知川葉枝見橋付近)下顎骨が採集された, H13.3(笹尾町)目撃した, H14.6.5(野田山町)目撃した, H15.9.18(善谷町)目撃した, H15.10.2(男鬼町)2頭目撃した、H15.10.2(笹尾町)2頭目撃した, H16.3.16(男鬼町)5頭目撃した, H16.3.16(仏生寺町)1頭目撃した, H16.4.7(男鬼町)救護した(TGM-0219), H17.1.18(善谷町)遺体を採集した(計測値)

【ロードキル】H12.10.20(中山町)遺体を採集した(TGM-0102)

【フィールドサイン】H11.9.21(笹尾町)次のものを確認した 食痕(ササ属、ウリハダカエデ) 樹皮はぎ(リョウブ7本) 足跡(足印長:7~8cm前後の行跡が10以上集中・足印長4cmの小さい個体の行跡1点含む) フン(平均長径:2cm前後) 角とぎ跡, H11.10.12(男鬼町)次のものを確認した 樹皮はぎ(樹種不明1本) 足跡(2地点で足印長7cmの大型の個体の行跡それぞれ一つずつ) 鳴き声(オスの発する「ミューン」という声 12:50~17:05の間に16回), H12.5.6(男鬼町)樹木はぎ(25本)・98粒のフン(平均短径:6mm)を確認した, H11.11.26(男鬼町・比婆神社)樹皮はぎ(スギ、ヒメシャラ)を確認した, H11.11.26(男鬼町・比婆神社~集落)フン(多数)・足跡(足印長:5~6cm)多数を確認した, H11.11.26(男鬼町・集落内)フン(平均長径:1.7~2cm多数)を確認した, H11.11.26(男鬼町~武奈町間)フン(軟便)多数・足跡(足印長:5cm前後)多数を確認した, H11.11.26(武奈町・集落内)足跡を確認した, H14.3.5(鳥居本町)足跡およびフンを高密度で確認した(特に水田周辺で多く見られた), H14.3.31(男鬼町)角とぎ跡・足跡・フンを多数確認した

【聞き取り】H11.9.21(笹尾町)付近の山によく出没する, H11.11.26(男鬼町)目撃する機会は多く、かなりの密度で生息しているように感じる, H12.5.27(正法寺町)最近は見かけない・2~3年前まではよく目撃した, H12.8.7(里根町)H11秋に1頭見た人がいる, H12.8.7(原町)近くの名神高速道路の路上で轢かれて死んでいたことがある, H12.8.7(甲田町)H10に小鹿が国道8号線を横切ったのを見た, H12.8.7(中山町)H11も目撃している・名神高速道路で何度かロードキルがあったのを見ている, H12.8.27(鳥居本町)男鬼町ではスギの樹皮はぎの被害は10年ほど前からあった(特に3年くらい前からひどくなっている・雪が降らなくなるとシカの数が増加したためかと思っている), H13.7.28(中山町)いる・以前は山の中にシカを捕るための落とし穴が作られていた, H13.7.28(荘厳寺町)シカによってまだ葉が青いイネの苗が食べられてしまう・樹皮剥ぎも周辺でしばしば見られる

【文献】3:(中山町)聞き取り調査で情報を得たとの記述がある

【彦根市近隣における情報】H11.11.26(多賀町後谷)足跡(多数)・糞(多数)を確認

【計測値】

TGM-0219:成獣(), 頭胴長:137.5cm, 尾長:13.0cm, 後足長(蹄先端まで):43.5cm, 頭長:31.0cm, 耳長(右):15.1cm, 肩高:88.0cm, 体重:58.0kg

TGM-0102:亜成獣(), 頭胴長:118.0cm, 尾長:11.0cm, 後足長(蹄先端まで):40.5cm, 頭長:15.5cm, 耳長:13.2cm, 肩高:77.0cm, 体重:32.5kg

:成獣(), 頭胴長:136.0cm, 後足長(左・蹄先端まで):42.5cm, 頭長:33.5cm, 耳長(左):14.8cm, 肩高:80.0cm, 前腕長:26.4cm, 胸囲:81.5cm, 体重:31.6kg+(内臓が一部食べられている)

【その他】ヘッドマウントが1点保存されているのを確認(鳥居本小学校蔵):成獣()・中山町の住人より鳥居本小学校へ寄贈されたもので詳しい来歴は不明。枝角が植立している。

- コメント -

フィールドサインの確認状況やライトセンサスの際の観察頻度から、山地における生息密度はかなり高いと推定される。また、個体群の維持に直接深刻な影響を与えるような要素は今のところないと思われ、ここでは普通種として位置付けた。しかし農作物への加害や樹皮剥ぎなどによる林業被害が多発していることから、今後の状況の変化に注目しておく必要があると考える。

その他イタチ類

ここでは、テン、イタチ、チョウセンイタチの識別ができなかった情報について記載することとする。

【確認】H12.8.9(稲部町)目撃, H12.8.9(松原町)目撃, H12.6.17(八坂町)犬上川右岸にて目撃, H12(日夏町)目撃, H13.7(荒神山)捕獲した(ネズミ類調査の際に混獲), H14.4(八坂町)目撃, H14(多賀町中川原)芹川沿いにて目撃, H15.7(石寺町)目撃, H15.8(八坂町)目撃, H15.9.29(八坂町)目撃, H15(野田沼)目撃

【ロードキル】H8.4.17(佐和山町), H8.10.11(東沼波町), H9.4.14(南川瀬町), H9.11.13(東沼波町), H9.11.20(鳥居本町), H10.10.5(芹川町), H10.10.19(野口町), H10.11.5(平田町), H11.3.23(鳥居本町), H11.3.24(栄町), H11.4.29(古沢町), H11.7.1(西沼波町), H11.10.4(鳥居本町), H11.10.21(里根町), H11.11.30(高宮町), H11.12.24(堀町), H12.3.3(東沼波町), H12.6.19(西今町), H12.7.11(里根町), H12.7.15(森堂町), H12.8.17(佐和山町), H12.9.5(外町), H12.10.5(南川瀬町), H12.10.12(東沼波町), H12.10.12(西沼波町), H12.10.15(南川瀬町), H12.11.6(南川瀬町), H13.3.29(肥田町), H13.5.10(佐和山町), H13.8.30(下矢倉町), H13.9.3(佐和山町), H13.10.08(南川瀬町), H13.10.20(古沢町), H14.4.16(東沼波町), H14.5.28(鳥居本町)

【聞き取り】H12.5.27(清崎町)テンとイタチは区別していない(テンコチと呼んでいる)・テンコチはいる, H12.8.7(里根町)テンとイタチは区別していない(テンコチと呼んでいる)・テンコチはいる, H12.8.7(原町)中仙道によく現れてちょろちょろしている・以前、径10cmほどのビニールパイプのトイをつたって天井裏へ入り込まれたことがある, H12.8.7(宮田町)テンもイタチもイタチと呼んで区別しないが佐和山にいる, H12.8.7(古沢町)イタチもテンも区別していない(テンコチと呼んでいる)・3年前に目撃した, H13.7.28(服部町)イタチのようなけものを見かけることはあるがどのような種類かは不明, H13.7.28(服部町)見かけることがある(秋に見ることが多いように感じる), H15.5.28(三津町)時々見かける, H15.5.28(中央町)城東小学校の体育館に出入りしている, H15.7.7(本庄町)度々見かける, H15.12.5(稲里町)テンコチは良く見かける

【彦根市近隣における情報】H8.7.22(愛知川町長野)行政資料中のロードキル記録, H9.4.10(五個荘町竜田)行政資料中のロードキル記録, H9.9.19(豊郷町安食西)行政資料中のロードキル記録, H9.11.28(愛知川町愛知川)行政資料中のロードキル記録, H10.4.22(五個荘町五位田)行政資料中のロードキル記録, H10.5.22(豊郷町高野瀬)行政資料中のロードキル記録, H10.5.26(五個荘町石塚)行政資料中のロードキル記録, H10.12.28(愛知川町

長野)行政資料中のロードキル記録, H11.3.30(愛知川町長野)行政資料中のロードキル記録, H11.5.29(米原町梅ヶ原)行政資料中のロードキル記録, H11.11.9(豊郷町安食西)行政資料中のロードキル記録, H12.2.28(愛知川町長野)行政資料中のロードキル記録, H12.6.26(米原町米原)行政資料中のロードキル記録, H13.4.25(豊郷町八町)行政資料中のロードキル記録

科名	種名 学名	分布状況等	国	県	市	
トガリネズミ	ジネズミ	荒神山			E II	
	<i>Crocidura dsinezumi</i>					
モグラ	ヒミズ	男鬼町、武奈町			E II	
	<i>Urotrichus talpoides</i>					
	アズマモグラ	男鬼町、中山町、仏生寺町			D	
	<i>Mogera wogura</i>					
コウベモグラ	大藪町、金沢町、下西川町、新海町、仏生寺町、松原町					
<i>Mogera robusta</i>						
キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	男鬼町		I	B	
	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>					
	コキクガシラコウモリ	男鬼町、正法寺町			B	
	<i>Rhinolophus cornutus</i>					
ヒナコウモリ	アブラコウモリ	石寺町、稲里町、大藪町、開出今町、甘呂町、清崎町、小泉町、正法寺町、外町、中藪町、西今町、八坂町、原町、日夏町、平町町、松原町、南川瀬町、曾根沼、野田沼				
	<i>Pipistrellus abramus</i>					
オナガザル	ニホンザル	男鬼町、開出今町、京町、後三条町、笹尾町、荘厳寺町、正法寺町、鳥居本町、中山町、野田山町、平田町、仏生寺町、武奈町、古沢町		IV	E I	
	<i>Macaca fuscata</i>					
ウサギ	ノウサギ	男鬼町、開出今町、甲田町、笹尾町、下矢倉町、中山町、原町、武奈町、荒神山			E I	
	<i>Lepus brachyurus</i>					
リス	ニホンリス	笹尾町、武奈町			C	
	<i>Sciurus lis</i>					
	ムササビ	男鬼町			III	C
	<i>Petaurista leucogenys</i>					
ネズミ	スミスネズミ	男鬼町		VI	D	
	<i>Eothenomys smithii</i>					
	ハタネズミ	下西川町、鳥居本町			E II	
	<i>Microtus montebelli</i>					
	カヤネズミ	開出今町、八坂町			III	D
	<i>Micromys minutus</i>					
	ヒメネズミ	男鬼町、武奈町			D	
<i>Apodemus argenteus</i>						
アカネズミ	男鬼町、笹尾町、佐和山町、新海町、善谷町、八坂町、東沼波町、武奈町、松原町、荒神山					
<i>Apodemus speciosus</i>						
ドブネズミ			大藪町、南川瀬町	E II		
<i>Rattus norvegicus</i>						

科名	種名 学名	分布状況等	国	県	市
ネズミ	クマネズミ <i>Rattus rattus</i>	平田町			E II
	ハツカネズミ <i>Mus musculus</i>	南川瀬町、安清町			E II
クマ	ツキノワグマ <i>Ursus thibetanus</i>				E II
	キツネ <i>Vulpes vulpes</i>	安食中町、石寺町、犬方町、宇尾町、大藪町、岡町、開出今町、甲田町、薩摩町、佐和山町、高宮町、田附町、外町、鳥居本町、野瀬町、八坂町、彦富町、日夏町、平田町、武奈町、松原町、南川瀬町、蓮台寺町			
イヌ	タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>	安食中町、男鬼町、石寺町、大堀町、開出今町、上稲葉町、川瀬馬場町、河原二丁目、甲田町、広野町、金亀町、里根町、佐和山町、下矢倉町、正法寺町、新海町、新海浜、芹川町、高宮町、外町、鳥居本町、西沼波町、野口町、八坂町、東沼波町、日夏町、仏生寺町、武奈町、松原町、南川瀬町、彦根城、雨壺山			
	オオカミ <i>Canis lupus</i>				A
	イタチ	テン <i>Martes melampus</i>	男鬼町、笹尾町、鳥居本町、仏生寺町、武奈町、荒神山		
イタチ	イタチ <i>Mustela itatsi</i>	石寺町、宇尾町、開出今町、栄町、芹川町、八坂町、日夏町、平田町、荒神山、野田沼			E I
	チョウセンイタチ <i>Mustela sibirica</i>	開出今町、小泉町、新海町、高宮町、野瀬町、荒神山			E I
	アナグマ <i>Meles meles</i>				E II
	カワウソ <i>Lutra lutra</i>		CR	VII	A
	ジャコウネコ <i>Paguma larvata</i>				E I
イノシシ	イノシシ <i>Sus scrofa</i>	大藪町、男鬼町、笹尾町、新海町、新海浜、長曾根町、中山町、野田山町、八坂町、武奈町、三津屋町			
	シカ <i>Cervus nippon</i>	男鬼町、笹尾町、善谷町、鳥居本町、中山町、野田山町、仏生寺町、武奈町、本庄町			
ウシ	カモシカ <i>Capricornis crispus</i>	男鬼町、仏生寺町、武奈町		III	D

表1:アカネズミの全計測値

採集地点no.	採集地	採集日	性	成長段階	体重(g)	頭胴長(mm)	尾長(mm)	後足長(mm)	頭長(mm)	耳長(mm)	精巣長径(mm)
Loc.5	笹尾町	2000/7/27		成獣	52.5	114	105	22	36.4	16	
Loc.5	笹尾町	2000/7/28		成獣	35.6	92	95	22.7	32.5	15	
Loc.5	笹尾町	2000/7/29		成獣	42.1	108	101	22.5	32	14	
Loc.4	男鬼町	2000/8/10		成獣	45.3		110				
Loc.4	男鬼町	2000/8/10		成獣	52.3	120	115	23.6	35.3	16	25.5
Loc.4	男鬼町	2000/8/12		成獣	45						
Loc.4	男鬼町	2000/8/13		成獣	46.7	120	110	23.5	35.8	13.8	
Loc.4	男鬼町	2000/8/13		成獣	54.8	123	105		35.4		
Loc.3	松原町	2000/8/29		成獣	36.6	114	105	25	33.4	11.5	
Loc.3	松原町	2000/8/31		成獣	42.9	124	111.5	25	34	12.2	
Loc.3	松原町	2000/8/31		成獣	44.3	121	104.5	23.5	33.4	10.2	
Loc.3	松原町	2000/9/1		成獣	46.6	104	98	23.5	34.1	12	
Loc.3	松原町	2000/9/1		成獣	38	105	95	23.3		13	
Loc.3	松原町	2000/9/2		成獣	39.3	105	100	22	37	13	
Loc.3	松原町	2000/9/3		成獣	48.9	118	98	23	35	12.4	15.3
Loc.3	松原町	2000/9/3		成獣	46.3	110	105	23.5	35.7	12.3	
Loc.2	武奈町	2000/8/31		成獣	50.4	12.3		25	36.3	11.9	16.9
Loc.2	武奈町	2000/9/1		成獣	55.2	110	108	24.2	34.8	15	21.3
Loc.2	武奈町	2000/9/1		成獣	39	105	98	21	34	13.5	
Loc.2	武奈町	2000/9/2		成獣	48.4	103		23	36	11.7	
Loc.2	武奈町	2000/9/3		成獣	38	104	95	22	36.5	12.5	
Loc.1-b	男鬼町	2000/8/30		成獣	35.9	124	66.5+	24	33.1	11.7	
Loc.1-b	男鬼町	2000/8/30		成獣	52	141	78.5+	24	34.4	11.5	16.3
Loc.1-b	男鬼町	2000/8/30		成獣	36.7	113	103.5	22.7	34.5	11.3	
Loc.1-b	男鬼町	2000/8/31		成獣	40.1	131	102	24.5	32.8	11.3	14.6
Loc.1-b	男鬼町	2000/8/31		成獣	47.9	141	79.5+	23.5	34	12.5	18.3
Loc.1-b	男鬼町	2000/8/31		成獣	56.7	141.5	68.5+	24.5	35.4	11.2	17.6
Loc.1-b	男鬼町	2000/8/31		成獣	38.6	118.5	102.5	23	34.2	11.4	
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/1		成獣	46.1	123	79	21.5	36	13.6	24.8
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/1		成獣	46.5	116	100	23	35.4	13.3	21.4
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/1		成獣	39.1	104	46+	21	31.8	14	

採集地点no.	採集地	採集日	性	成長段階	体重(g)	頭胴長(mm)	尾長(mm)	後足長(mm)	頭長(mm)	耳長(mm)	精巢長径(mm)
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/2		成獣	42.2	117	97	23	34.4	12	18
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/2		成獣	38	110	101	23	32.8	13	
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/2		成獣	44.4	110	110	23.5	35.2	14.4	18
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/2		成獣	39	108	99	22	34	12.7	
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/3		成獣	52.6	125	111	24	36.3	12.2	16.3
Loc.1-b	男鬼町	2000/9/3		成獣	47.2	117	106	22	35.5	12	15
Loc.7	東沼波町	2003/4/15		成獣	31.6	109.0	100.0	23.5	31.5	15.5	
Loc.7	東沼波町	2003/4/15		成獣	38.7	114.0	105.0	24.4	33.1	17.0	
Loc.7	東沼波町	2003/4/15		成獣		119.0	98.0	23.0	32.5	16.9	
Loc.8	新海町	2003/11/7		亜成獣	23.2	8.7	90.0	22.0	30.6	13.6	
Loc.8	新海町	2003/11/8		亜成獣	27.4	95.0	87.0	21.0	31.6	11.6	
Loc.8	新海町	2003/11/8		亜成獣	23.4	90.0	87.0	22.3	30.6	13.4	
Loc.8	新海町	2003/11/8		亜成獣	25.8	100.0	100.0	22.6	32.0	12.8	
Loc.9	善谷町	2003/11/13		成獣	37.5	110.0	108.0	22.5	31.9	15.2	
Loc.9	善谷町	2003/11/13		成獣	22.0	75.0	83.0	23.0	29.7	13.6	
Loc.9	善谷町	2003/11/14		成獣	44.1	104.0	105.0	23.1	32.3	14.9	
Loc.9	善谷町	2003/11/15		成獣	38.2	113.0	98.0+	22.6	34.2	13.3	
Loc.9	善谷町	2003/11/15		成獣	56.9	118.0	105.0	21.7	34.6	12.9	
Loc.10	佐和山町	2003/11/14		成獣	54.1	133.0	112.0	23.1	37.3	14.0	17.4
Loc.10	佐和山町	2003/11/15		成獣	20.9	92.0	82.0	22.3	30.6	12.8	
Loc.10	佐和山町	2003/11/15		成獣	50.5	119.0	115.0	23.0	35.9	14.9	18.0
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/6		亜成獣	37.5	111	96	23	33.5	11.2	
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/6		成獣	47.3	120	102	22.5	35	13.7	
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/6		成獣	43.7	114	70+	23.4	35.5	15	
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/7		亜成獣	32.4	103	93	22	34.3	12.1	
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/7		成獣	41.6	111	8.5+	23	35	12.5	
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/7		成獣	44.5	120	105	23	34	12.6	
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/7		亜成獣	28	102	90	22.4	32.7	11.1	
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/8		成獣	48.7	100.5	110	23.2	37.3	15.2	
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/9			33						
Loc.6	多賀町猿木	2000/7/9		成獣	47.3	115	110	22.8	37.3	12.5	

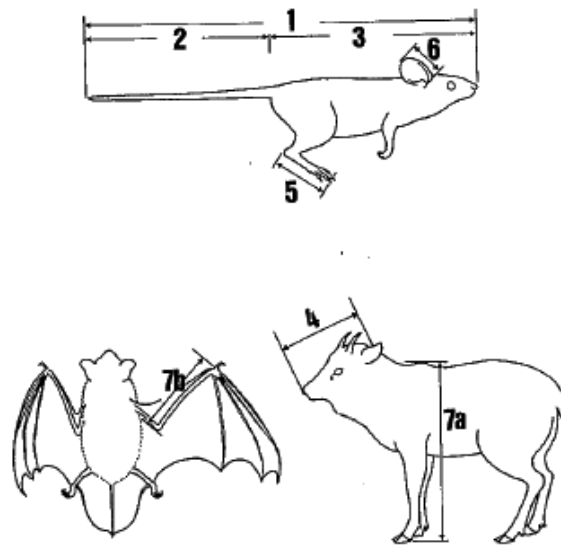


図. 1 外部形態計測位置

外部形態計測項目

1. 全長：体を背位においてよく伸ばし、吻端から尾端（毛は含めない）までの直線距離を測る。
2. 尾長：尾を背側に直角に折り曲げ、物差しを背にあてて後方へずらすと尾の基部で止まる。この位置から尾端（毛は含めない）まで尾を物差しに沿って伸ばした長さを測る。
3. 頭胴長：全長から尾長を引いた長さ。
4. 頭長：頭蓋骨後端から吻端までの長さ。
5. 後足長：足指をよく伸ばし、かかとから一番長い指の先端（爪は含めない）。
6. 耳長：耳介の前外面で耳珠と対珠間の珠間切痕の下端から耳介の先端（毛は含めない）までの長さ。
7. 肩高または前腕長：大型獣については肩高 a （動物が立った時の肩甲骨上端から足底までの高さ）を、それ以外の動物については前腕長 b （手関節から肘関節までの長さ）を計測。
8. 体重：大型獣は吊秤で0.1 kgまで計測し、それ以外の動物については電子天秤で0.1 gまで計測した。

(参考) アンケート調査で寄せられた彦根市内のほ乳類生息情報

	コウモリ類	イタチ類	タヌキ	キツネ	ニホンザル
甲田町					1
宮田町		1		1	1
男鬼町					2
鳥居本町	1	1		1	6
古沢町				2	
船町		1			
尾末町			1		
松原町		3	2	2	
野田山町		1			
原町	1	2			
馬場		1			
芹川町		1			
大東町	1				
京町		3	1		
地藏町	1				
西沼波町			1	1	
池州町		1			
長曽根町		1			
岡町				1	
平田町	2	2		2	
大藪町	1	5	1	4	
大堀町			1		
東沼波町		3			
小泉町		2			
西今町	3	1			
戸賀町	1				
野瀬町				1	
高宮町	1	1	1	1	
竹ヶ鼻町		2	1	2	
宇尾町				1	
開出今町		2	2	1	
八坂町	1	1	1		
犬方町		1		3	
甘呂町		2	1	3	
葛籠町		1		2	
日夏町	1	7		3	
野口町	1				
川瀬馬場町		3		1	
南川瀬町	1			1	
太堂町		1		2	
賀田山町		2		2	
石寺町			1		
上岡部町	1				
薩摩町		1		1	
田原町			1		
稲部町		1	1	3	
新海浜			1		

アンケートのお願い

記入例を参考に、下の枠内に記入してください。

- ① どんな動物を見ましたか？
- ② どこで見ましたか？（できれば周りの状況もご記入ください。）
- ③ いつ見ましたか？

記入例)

① たぬき	② 大藪町 田んぼ	③ 99年6月半ば

- ④ 動物のことについてや、本アンケートの感想など、何かありましたら、何でもご自由にお書き下さい。

- ⑤ もしよろしければ、お名前と住所、電話番号をお書き下さい。

お名前 _____
ご住所 _____
Tel _____

ご協力ありがとうございました。

彦根市自然環境調査員動物担当一同

【問い合わせ先】 彦根市役所 生活環境課 TEL 22-1411